

# 官報

號外

明治三十二年二月二十一日

火曜日

印刷局

## 第十三回 衆議院議事速記録第三十二號

明治三十二年二月二十日(月曜日)午後一時十五分開議

議事日程 第三十號 明治三十二年二月二十日

午後一時開議

第一 沖繩縣土地整理法案(政府提出)

第二 要塞地帶法案(政府提出)

第三 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

第四 登録稅法中改正法律案(政府提出)

第五 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

第六 事業公債及鐵道公債特別會計法中改正法律案(政府提出)

第七 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

第八 中央工業試驗所設立ニ關スル建議案(協坂行三君)

第九 農事試驗本支場事務擴張ノ建議案(協坂行三君)

第十 鐵道敷設工事ヲ豫定期限内ニ竣功スヘキ建議案

(降旗元太郎君)

第十一 鐵道敷設法中改正法律案(菊池九郎君)

第十二 第五回内國勸業博覽會ヲ大阪ニ開設スルノ建議案(藤金作君)

第十三 第五回内國勸業博覽會開設ヲ東京市ニ設置スルノ建議案(星亨君)

議長(片岡健吉君) 是ヨリ諸般ノ報告ヲ致シマス

(寺田書記官朗讀)

貴族院ヨリ印紙稅法案ヲ回付セラレタリ

議員ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ

明治三十二年法律第十號改正法律案

提出者

前川 慎造君

西村 淳藏君

佐伯 誠一郎君

提出者

恆松 隆慶君

杉田 定一君

日本銀行納付金ニ關スル法律案協議委員議長及副議長左ノ適當選セラレ

第二讀會

第一讀會

第一讀會

第一讀會

第一讀會

第一讀會

第一讀會

第一讀會

第一讀會

第一讀會

第一讀會

第一讀會

第一讀會

第一讀會

第一讀會

第一讀會

第一讀會

第一讀會

第一讀會

第一讀會

第一讀會

第一讀會

第一讀會

第一讀會

第一讀會

第一讀會

第一讀會

議長 副議長 特別委員長及理事左ノ適當選セラレタリ

肥料取締法案

委員長

種牡馬檢査法中改正法律案

委員長

府縣制改正法律案外一件

委員長

外國人ノ署名捺印及無資力證明ニ關スル法律案

委員長

理事

關稅法案

委員長

理事

特別委員左ノ通指名セリ

小學校教育費國庫補助法案外一件委員

大隈 英磨君

工藤 行幹君

安部 井磐根君

信用組合設置ニ關スル建議案委員

田邊 爲三郎君

喜多川 孝經君

內山 松世君

菊池 九郎君

大津 淳一郎君

首藤 陸三君

關 信之介君

千田 軍之助君

小田 貫一君

議長(片岡健吉君) 是ヨリ會議ヲ開キマス、諸君ニ御諮リマスルコトガアリマス、林喬ガ病氣ニ附キ商法修正案ノ委員ノ辭任ヲ申出テラレマシタガ、御

異議ガナケレバ、之ヲ許スコトニ致シマス

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

鈴木 重遠君

石田 貫之助君

石谷 董九郎君

利光 鶴松君

大津 淳一郎君

須藤 善一郎君

多田 作兵衛君

粕谷 義三君

岡野 寬君

花井 卓藏君

星 松三郎君

四宮 有信君

下飯坂 權三郎君

鈴木 儀左衛門君

三輪 傳七君

田中 喜太郎君

永江 純一君

林 元俊君

多田 通君

原田 赴城君

和泉 邦彦君

御異議

ガナケレバ、其後任ニ石黒 涵一郎君ヲ指名致シマス

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

御異議

ガナケレバ、其後任ニ石黒 涵一郎君ヲ指名致シマス

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

御異議

ガナケレバ、其後任ニ石黒 涵一郎君ヲ指名致シマス

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

御異議

○議長(片岡健吉君) 永井嘉六郎君ガ病氣ニ附キ衆議院議員選舉法改正法律案ノ委員ノ辭任ヲ申出デラレマシタガ、御異議ガナケレバ是モ許可スルコトニ致シマス

○議長(片岡健吉君) 是モ議長指名ニ成立タル委員デアリマスカラ、其後任ハ前島丈之助君ヲ指名致シマス

○大津淳一郎君(百九十一番) 議長

○大津淳一郎君(百九十一番) 種牡馬検査法改正法律案ノ委員會ヲ是カラ開キタウゴザイマスカラ、本會ノ認可ヲ得タウゴザイマス

○議長(片岡健吉君) 大津淳一郎君カラ是ヨリ種牡馬検査法改正法律案ノ委員會ヲ開キタイト云フコトデアリマスガ、御異議ガナケレバ、許スコトニ致シマス

○多田作兵衛君(七十一番) 府縣制郡制改正法律案ノ委員會ヲ開キタウゴザイマスカラ……

○議長(片岡健吉君) 多田作兵衛君カラ是ヨリ府縣制郡制改正法律案ノ委員會ヲ開キタイト云フコトデアリマスガ、御異議ガナケレバ、許可スルコトニ致シマス

○杉田定一君(二百九十九番) 國有林野法外三件ノ委員會ヲ是カラ開キタウゴザイマスカラ……

○議長(片岡健吉君) 杉田定一君モ是ヨリ國有林野法案其他三件ノ特別委員會ヲ開キタイト云フコトデアリマスガ、御異議ガナケレバ、許スコトニ致シマス

○議長(片岡健吉君) 豫算委員長栗原亮一君カラモ、是ヨリ豫算委員會ヲ開キタイト云フコトデアリマスガ、御異議ガナケレバ、許スコトニ致シマス

○山本幸彦君(百八十九番) 議長

○議長(片岡健吉君) 山本幸彦君

○山本幸彦君(百八十九番) 唯今請願委員會ヲ開キタウゴザイマスカラ御許ヲ請ヒマス

○議長(片岡健吉君) 請願委員長カラ今ヨリ請願委員會ヲ開キタイト云フコトデアリマスガ、御異議ガナケレバ、許スコトニ致シマス

○議長(片岡健吉君) 呼フ者アリ

○議長(片岡健吉君) 呼フ者アリ

モ、中國ニ於テモ名稱ノ明ナラザル部分ハ、皆官林ニ組込ム途端ニハ、隨分宅地ノ際マデ官林ニナツテシマツタコトガアルノデアル、況ヤ此沖繩縣ハ島國デアツテ、中央政府ノ能ク監督ノ容易ニ及バザル所デアアルノデアアル、近頃聞ク所ニ依レバ、此地方ノ知事ト云フ者ハ、何分ニモドウモ其宜シクナイ行バカリ多イレト云フコトニ聞イテ居ルノデアアル、是レ宜シクナイ行ト云フコトヲ一々是デ私ガ申サズトモ、内務省ニ於テ、其他中央官衙ニ於テ、宜シク是ハ監督ヲシテ、其法律ノ能ク正當ニ行レルヤウニナラナケレバナラヌノハ勿論、此現今ノ有様ヲ以テ見ルト云フト、今日ノ沖繩縣知事ニ於テハ、果シテ此法律ヲ宜シク之ヲ適當ニ實行スルコトガ、之ヲ施行スルコトヲ得ルヤ否ヤト云フノデアアル、單純ニ申シマスルト、今日ノ沖繩縣ト云フモノハ、色ト云フモノト怒ト云フモノ、此二ツガ亂暴狼籍ニナツテ居ルノデアリマス、色ト云フモノ、此色ト怒ト云フモノハ、知事ヲ始トシテ亂暴狼籍ニナツテ居ル、此簡短ナ言葉ニ止メテ置キマスカラ、是ニ就イテ宜シク眼ヲ注イデ、今日ノ知事ヲ以テ、此法律ガ此議場ヲ幸ニ通過スルトモ、此法律ガ眞ニ適當ニ其土地ニ及サル、ヤウニ、今日ノ知事ヲ以テ爲シ得ルヤ否ヤト云フコトヲ御質問シテ置キマス

○議長(片岡健吉君) 沖繩縣土地整理法案ノ第一條ヲ議題ニ供シマス、第一條ニ附イテハ、原案ニ御異議アリマセヌカ

○議長(片岡健吉君) 御異議ガナケレバ、原案ノ通決シマス、次ハ第二條ヲ議題ニ供シマス

○高木正年君(百四十四番) 此沖繩縣ノ土地ノコトニ附イテ、法案ヲ讀シマス前ニ、チヨット質問ヲ致シタイコトガアリマス、ソレハ外デモゴザリマセヌカ、先年當議會ニ於テ議論ノゴザリマシタ、石垣島デ或ル者ヲ貸渡シマス、彼ノ地所ノコトニ附イテ質問ヲ致シタイ、其意味ハ本案ニ關係ガアリマスガ、當時貸下ゲタ人ニ整理ニ依ツテ所有權ヲ與ヘルコトニナリマス、實際政府ガ既下ニ於テ人民ノ所有トナルベキモノヲ無理ニ奪フテ、當時ノ内務次官アリマシタコトガアリマスガ、今日ハ其儘ニナツタ中止セラレテアルサウデアリマスガ、彼ノ土地ハ人民ニ返スカ、或ハ是マデノ拜借人ニ與ヘルノデゴザリマスガ、其コトヲ一應承リタイト思ヒマス

○政府委員(日賀田種太郎君) 高木君ニ御答ヲシマスガ、唯今ノ石垣島ノ土地ハ、ドウ云フ性質ニナルカ知リマセヌカ、即チ此法律ニ定ムル所ニ依リ、民有ニナルベキモノハ民有ニナリ、國有ニナルベキモノハ國有ニナルノデアリ、此法律ハ是カラ將來ニ對シテ、大ニ整理ヲ求ムル目的ト致シマスカラ、篤ト其實際ニ就イテ、官民ノミノ區別ヲ定ムルノデアリマス

○高木正年君(百四十四番) 唯今ノ御答辯ハ、要領ヲ得ヌト思ヒマス、石垣島ハ當時内務次官タリシ松岡其他ノ人ニモ貸與ヘマシタノハ、島民ガ習慣ノ上カラ所有權ト云フモノガ、正々ニナツトモ、事實ノ上ニ於テ島ノモノヲ奪ウテ小作地ニ貸下ゲテシタノガ、其當時ノ事件デアリマス、ソレ故ニ右等ノモノハ、此良民ニ還スカト云フコトヲ開ケバ宜イノデアリマス

(政府委員日賀田種太郎君) 高木君ニ御答致シマスガ、唯今ノ如キ土地ハ、篤ト實際ヲ調べンケレバ分ラヌデス、此法律ニ依ツテドチラニ往クヤト云フコトヲ極メヌケレバ、分ラヌノデ、唯今ノ所デハ御答ガ出來マセヌ

○政府委員(日賀田種太郎君) 唯今ノ御答辯ハ、要領ヲ得ヌト思ヒマス、石垣島ハ當時内務次官タリシ松岡其他ノ人ニモ貸與ヘマシタノハ、島民ガ習慣ノ上カラ所有權ト云フモノガ、正々ニナツトモ、事實ノ上ニ於テ島ノモノヲ奪ウテ小作地ニ貸下ゲテシタノガ、其當時ノ事件デアリマス、ソレ故ニ右等ノモノハ、此良民ニ還スカト云フコトヲ開ケバ宜イノデアリマス

(政府委員日賀田種太郎君) 高木君ニ御答致シマスガ、唯今ノ如キ土地ハ、篤ト實際ヲ調べンケレバ分ラヌデス、此法律ニ依ツテドチラニ往クヤト云フコトヲ極メヌケレバ、分ラヌノデ、唯今ノ所デハ御答ガ出來マセヌ

○政府委員(日賀田種太郎君) 唯今ノ御答辯ハ、要領ヲ得ヌト思ヒマス、石垣島ハ當時内務次官タリシ松岡其他ノ人ニモ貸與ヘマシタノハ、島民ガ習慣ノ上カラ所有權ト云フモノガ、正々ニナツトモ、事實ノ上ニ於テ島ノモノヲ奪ウテ小作地ニ貸下ゲテシタノガ、其當時ノ事件デアリマス、ソレ故ニ右等ノモノハ、此良民ニ還スカト云フコトヲ開ケバ宜イノデアリマス

(政府委員日賀田種太郎君) 高木君ニ御答致シマスガ、唯今ノ如キ土地ハ、篤ト實際ヲ調べンケレバ分ラヌデス、此法律ニ依ツテドチラニ往クヤト云フコトヲ極メヌケレバ、分ラヌノデ、唯今ノ所デハ御答ガ出來マセヌ

○政府委員(日賀田種太郎君) 唯今ノ御答辯ハ、要領ヲ得ヌト思ヒマス、石垣島ハ當時内務次官タリシ松岡其他ノ人ニモ貸與ヘマシタノハ、島民ガ習慣ノ上カラ所有權ト云フモノガ、正々ニナツトモ、事實ノ上ニ於テ島ノモノヲ奪ウテ小作地ニ貸下ゲテシタノガ、其當時ノ事件デアリマス、ソレ故ニ右等ノモノハ、此良民ニ還スカト云フコトヲ開ケバ宜イノデアリマス

(政府委員日賀田種太郎君) 高木君ニ御答致シマスガ、唯今ノ如キ土地ハ、篤ト實際ヲ調べンケレバ分ラヌデス、此法律ニ依ツテドチラニ往クヤト云フコトヲ極メヌケレバ、分ラヌノデ、唯今ノ所デハ御答ガ出來マセヌ

○政府委員(日賀田種太郎君) 唯今ノ御答辯ハ、要領ヲ得ヌト思ヒマス、石垣島ハ當時内務次官タリシ松岡其他ノ人ニモ貸與ヘマシタノハ、島民ガ習慣ノ上カラ所有權ト云フモノガ、正々ニナツトモ、事實ノ上ニ於テ島ノモノヲ奪ウテ小作地ニ貸下ゲテシタノガ、其當時ノ事件デアリマス、ソレ故ニ右等ノモノハ、此良民ニ還スカト云フコトヲ開ケバ宜イノデアリマス

(政府委員日賀田種太郎君) 高木君ニ御答致シマスガ、唯今ノ如キ土地ハ、篤ト實際ヲ調べンケレバ分ラヌデス、此法律ニ依ツテドチラニ往クヤト云フコトヲ極メヌケレバ、分ラヌノデ、唯今ノ所デハ御答ガ出來マセヌ

○政府委員(日賀田種太郎君) 唯今ノ御答辯ハ、要領ヲ得ヌト思ヒマス、石垣島ハ當時内務次官タリシ松岡其他ノ人ニモ貸與ヘマシタノハ、島民ガ習慣ノ上カラ所有權ト云フモノガ、正々ニナツトモ、事實ノ上ニ於テ島ノモノヲ奪ウテ小作地ニ貸下ゲテシタノガ、其當時ノ事件デアリマス、ソレ故ニ右等ノモノハ、此良民ニ還スカト云フコトヲ開ケバ宜イノデアリマス

○恆松隆慶君(九十七番) 此第二條ニハ修正ガゴザイマスガ、此修正ハ法律施行ヨリ一箇年間土地ノ所有權ヲ未確定ニ致シテ置ケバ、狡猾ナ者共ガ其土地ヲ買占ムルト云フヤウナ憂ガアルト云フヤウナ趣意デ、改正ニナッテ居ルヤウデアリマスガ、是ハ最モ原案ガ宜シト思フ、故ニ復活セネバナラヌト思ヒマス、此琉球ニ從來賣買書入杯モ、舊藩ノトキカラ止メテアル次第デアリマス、能ク此法ニ依テ土地ノ整理ヲシテ、サウシテ一年後ニ其土地ノ所有權ヲ與ヘルト云フヤウナコトニモ、却ッテ今ノ修正ノ如クナラ、其土地ノ人ガ其土地ノ所有權ヲ漫ニ失フ憂ガアラウト思ヒマスカラ、是ハ原案ガ宜シト云フコトデゴザリマス

(石黒瀧一郎君演壇ニ登ル)

○石黒瀧一郎君(百四十一番) 唯今沖繩縣土地整理法案第二條ニ附キマシテ、原案復活ノ御論ガゴザリマシタガ、本員ハ委員會ノ修正ヲ是トシテ、其修正致シタ、本員モ委員ノ一人トシテ修正ヲ致シマシタ趣意ヲ述ベ、原案復活ヲ主張スル方々ガ、此法律ノ精神ニ少シク見解ヲ間違ヘテ御出ニナリハセヌカト云フ疑ガアリマスカラ、其事柄ヲ辯ジテ、修正案ヲ贊成致シマス者デアリマス、此第二條ノ原案ノ趣意ニ依リマスルト、此法律施行ノ日ヨリ一箇年ヲ經過シタルトキニ於テ、最終ノ地割ニ依リ其配當ヲ受ケタル者ガ、所有權ヲ得ルト云フコトニナルノデ、要スルニ此法律ガ發布ニナリマシテカラ、一年ノ後ニ現ニ地割配當ヲ受ケテ居ル者ガ、其土地ノ所有權ニナルト云フコトニナルノデアアル、之ニ對シテ委員會ノ修正ハ、先ヅ法律發布ノ日ニ於テ、現ニ配當ヲ受ケテ居ルモノヲ以テ所有權ト認メテ、若シ異議ノアル者ガアレバ、一箇年內ニ地割配當ヲ仕直スコトガ出來ル、斯ウ云フ取除キガ設ケテアルノデアアル、ツレデ之ノ原案ニ復活スルト云フ人ノ考カラ申シマスルト云フナ、此地割配當ト云フモノノガ、所有權ヲ定ムル目的ヲ以テ出來テ居ル配當デアライカハラシテ、一年猶豫ヲシテ置イタラバ、何レノ土地モ即チ此地割ヲ爲スベキ土地ハ、更ニ公平ノ地割ヲシテ所有權ヲ定メル所ノ準備ヲ爲シ得ルデアラウ、故ニ一箇年ノ猶豫ヲ與ヘタガ宜シ、ト斯ウ云フ趣意カラ起ルモノト推察サレルノデアアル、併ナガラ諸君、此原案ノ第一項ノ趣意ハ、左様ナ目的ヲ持ッテ居ルモノデアハナイノデアアル、何故ナレバ此地割配當ト申シマスルモノニハ、習慣ノ上デ各ノ期限ガアル、即チ短イモノハ六七年、長キモノハ十四五箇年ノ期限ヲ定メテ配當ヲシテ居ルモノデアリマスルカラ、原案ノ精神ハ法律施行ノ後一年內ニ遇然期限ガ到來シテ、配當仕直シマスルモノガアツタナラバ、其最終ノ期限ニ所持シテ居ルモノヲ以テ、所有權ト看做スト云フ趣意ナノデアアル、決シテ此地割配當ノ全體ガ一年內ニ仕換ヘラレルト云フ希望ヲ持ッテ居ルノデアハナイノデアアル、原案復活論者ガ、斯様ニ一年間ノ猶豫ヲ與ヘタナラバ、地割配當ガ更ニ公平ニ出來得ルダラウト云フ考ハ、全ク間違ッテ居ルノデアアル、即チ其一年間ニ偶然期限ノ到來シタ地割ダケガ、改正サル、モノデアゴザイマシテ、利益ノ全體ニ及ブモノデアナイノデアアリマス、故ニ土地ノ整理ノ精神カラ申シマスルト、先ヅ法律發布ノ日ニ於テ、現ニ地割配當ヲ受ケテ居ルモノヲ其所有權ト定メテ、更ニ但書ニ於テ協議ノ上改正スルハ苦シクナイト云フ取除キヲ設ケタラバ、即チ唯今申ス五六年若クハ十四五年ノ期限ニ未ダ到來シナイモノト雖モ、協議ノ上デ仕換ヘル分ハ苦シクナイト云フコトニ修正シテアルノデアアル、因ッテ此修正案ニ附イテハ、政府委員モ斯クナリマシテモ、決シテ差支ハナイト云フ、同意ノ意ヲ表サレタ次第デアアルノデ、又整理ノ方カラ申シマスレバ、斯ノ如ク修正致シマシタ

方ガ、進行ノ上ニ於テ頗ル便利ヲ得ルモノデアアルト信シマスルカラシテ、本員ハ此修正案ニ贊成ノ意ヲ表スルモノデアリマス

○西村淳藏君(六十二番) 最早採決ヲ望ミマス

○大塚成吉君(二百二十一番) 本員ハチヨリト此原案復活ノコトニ附キマシテ贊成ノ意見ヲ述ベマス、此法案ノ第二條ニ於テ、キマシテ原案ト、ツレカラシテ委員會ノ修正案トヲ比較致シテ見マスレバ、ドノ點ガ違ヒマスルカト云フテ見マスルト、原案ニハ最終ノ地割ヲ爲スコトヲ許シテアル、ツレカラシテ修正案ニハ先ヅ所有權ヲ定ムルカラシテ、當然其一年間ニ到著シタル所ノ最終ノ地割ヲ爲ス所ノ權利ヲ失フコトニナリマス、ツレカラシテ此法律ノ施行ノ當日ニ所有權ヲ與ヘルコトニ致シマスルト云フ、其結果ドウ云フコトニナルカト申シマスルト、此最終ノ地割ト申スモノハ、當然其一年間ニ到著シタ地割ノ期限ニ當ッテ居ルモノハ、權利ガアツテ、最終ノ地割ヲナスコトガ出來ルノデアアル、最終ニ法律上所有權ト云フモノヲ確定シタト云フコトデアリマスニ、其所有權ヲ得タト云フモノヲ確定シタト云フコトニナリマス、之、竟ニ協議モ遂グズ、地割ヲナスコトガ出來ナイト云フコトニナリマス、一面ニハ現在ニ利益シタ……ノミガ此法案ニ依ッテ利益ヲ得ルコトニナッテ、他ノ總テノ者ガ利益ヲ失フ結果ニナルノデアアリマス、ツレ故ニ私共ノ考ニハ、先ヅ此舊來ノ慣行ヲ成ルベク重シテ、所有權ヲ確定スル前ニ於キマシテハ、少クとも一箇年ノ期間ヲ與ヘ、其間ニ當然期限ガ到著シテ地割ヲ爲スベキ者ガアツタナラバ、是非其者ガ地割ヲスル、一年ニ縱令當然期限ガ到著セズトモ、地割ヲシナケレバナラヌ狀況ガアルモノハ、多數ノ協議ニ依リテ見マスルト、此趣意ヲ貫クニ最モ適當ナル法案デアアルト信ズルノデアアル、ツレ故ニ原案復活ヲ贊成シマス

(恆松隆慶君採決、原案ガ宜シ、政府モ喜ブダラウト呼フ)

○議長(片岡健吉君) 委員會ノ修正說ニ附イテ採決ヲ致シマス、委員ノ修正說ニ同意ノ諸君ハ起立ヲ請ヒマス

起立者 少數

○議長(片岡健吉君) 少數ト認メマス

(「多數々々」ト呼ビ又「少數々々」ト呼フ者アリ)

○議長(片岡健吉君) 少數ト認メマス

(「多數々々」ト呼ビ又「少數々々」ト呼フ又恆松隆慶君「ヤカマシイ問題デアナイ、ドウカ次ノ條項ニ移ラレシコトヲ……外ノ用デア立ッテ居ル者モアル」ト呼ビ又「立ッテ又坐ッタ人ガアル」ト呼フ者アリ)

○議長(片岡健吉君) 少數ト認メマス、原案ニ附イテ御異議ハアリマスマイカ

(「異議ナシ異議ナシ、大贊成」ト呼フ者アリ)

○議長(片岡健吉君) ツレデハ原案ニ決シマス、次ハ第三條ヲ議題ニ供シマス

議案ニ三條ハ委員會ノ修正ニ附イテ採決致シマス、委員會ノ修正說ニ同意ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○議長(片岡健吉君) 多數ト認メマス、委員會ノ修正說通ニ決シマス

(恆松隆慶君「ドウゾ後トハ全部一節トシテヤッテ下サイ、委員說ハ皆贊成デアリマスカラ、一項々々デアハ實ニ困リマス議長」ト呼フ)

○議長(片岡健吉君) 恆松隆慶君  
 ○恆松隆慶君(九十七番) 後トハ全部一節トシテ、委員長ノ修正説ヲ贊成ス  
 ルノデゴザイマス、ドウカサウナリマスマサウニ……  
 ○議長(片岡健吉君) 四條ト五條ハ委員會ノ修正説ガアリマセヌガ、原案ニ  
 御異議ハアリマスマイカ  
 (異議ナシト呼フ者アリ)

○議長(片岡健吉君) 御異議ガナケレバ原案ニ決シマス——第六條ヲ議題ト  
 致シマス——第六條ニハ委員會ノ修正ガアリマス、是モ委員會ノ修正ニ御異  
 議アリマスマイカ  
 (異議ナシト呼フ者アリ)

○議長(片岡健吉君) 御異議ナケレバ、委員會ノ修正説ニ決シマス、第七條  
 カラ二十條マデヲ議題ニ供シマス——是ニハ委員會ノ修正説ガアリマセヌ、  
 原案ニ御異議アリマスマイカ  
 (異議ナシト呼フ者アリ)

○議長(片岡健吉君) 御異議ナケレバ、原案ノ通決シマス、第二十一條ヲ議  
 題ニ供シマス、是ニハ委員會ノ修正ガアリマス、委員會ノ修正通御異議アリ  
 マスマイカ  
 (異議ナシト呼フ者アリ)

○議長(片岡健吉君) 御異議ナケレバ、委員會ノ修正説ニ決シマス、第二十二  
 條ヨリ第二十七條マデヲ議題ニ供シマス——是ハ原案ノ通御異議アリマスマ  
 イカ  
 (異議ナシト呼フ者アリ)

○議長(片岡健吉君) 御異議ナケレバ、原案通決シマス  
 ○恆松隆慶君(九十七番) 直チニ三讀會ヲ開キ、確定サラレヌコトヲ希望致  
 シマス  
 (贊成々々ト呼フ者アリ)

○議長(片岡健吉君) 直チニ三讀會ヲ開クコトニ御異議アリマスマイカ  
 (異議ナシト呼フ者アリ)  
 ○議長(片岡健吉君) 御異議ナケレバ、直チニ三讀會ヲ開クコトニ致シマス  
 (異議ナシト呼フ者アリ)

沖繩縣土地整理法案 第三讀會  
 ○恆松隆慶君(九十七番) 二讀會ノ通御異議ナシ  
 ○議長(片岡健吉君) 二讀會ノ通りテ御異議アリマスマイカ  
 (異議ナシト呼フ者アリ)

○議長(片岡健吉君) 御異議ナケレバ確定致シマス、議事日程ノ第二要塞地  
 帶法案第一讀會、議案ノ朗讀ヲ省略シマス

第二 要塞地帶法案(政府提出貴族院送付) 第一讀會  
 要塞地帶法案 (大字ハ原案小字及ハ貴族院修正)

第一章 總則  
 第一條 要塞ノ本郭、堡壘、砲臺、水雷衛所其ノ他國防ノ爲建設シタル諸  
 般ノ防禦營造物ヲ總稱シテ國防用防禦營造物ト謂ヒ其ノ周圍ノ區域ヲ要  
 塞地帶ト名ク

第二條 要塞地帶ノ幅員ハ防禦營造物ノ各突出部ヲ連結スル線ヲ基線トシ  
 此ノ線ヨリ外方一定ノ距離以内ニ於テ之ヲ定ム  
 第三條 要塞地帶ハ陸地ト海面トヲ問ハス之ヲ三區ニ分チ各區ノ幅員ハ左  
 ノ區別ニ從ヒ陸軍大臣之ヲ定メ之ヲ告示ス其ノ之ヲ變更スル場合亦同  
 シ但シ陸軍防禦營造物ノ地帶及第七條第二項ノ區域カ海軍防禦營造物  
 地帶及第七條第二項ノ區域ト相關聯スルカ或ハ軍港要港又ハ海軍用地ニ  
 係ル場合並陸軍用地カ海軍防禦營造物ノ地帶及第七條第二項ノ區域ト相  
 關聯スル場合ニ於テハ陸軍大臣海軍大臣協議ノ上之ヲ定メ連署シテ告示  
 ヲ爲スコトヲ要ス

第一區 基線ト防禦營造物間ノ區域及基線ヨリ測リ二百五十間以内及  
 基線ト防禦營造物間ノ區域  
 第二區 基線ヨリ測リ七百五十間以内  
 第三區 基線ヨリ測リ二千二百五十間以内

第四條 要塞司令官鎮守府司令長官(要港ニ在テハ) 及築城部本部長ハ要塞地  
 帶ヲ劃スル爲其ノ他必要ト認ムル場合ニ於テハ部下官僚ヲシテ要塞地帶  
 内及第七條第二項ノ區域内何レノ地ヲ問ハス出入セシムルコトヲ得但シ  
 陸海軍用地内ニ出入セシメントスルトキハ互ニ當該官廳ノ承認ヲ經ベシ

第五條 陸軍防禦營造物ノ地帶及第七條第二項ノ區域ニ關聯セサル海軍防  
 禦營造物ノ地帶及第七條第二項ノ區域内ニ關シテハ此ノ法律ニ規定スル  
 陸軍大臣ノ職務ハ海軍大臣之ヲ行ヒ要塞司令官ノ職務ハ鎮守府司令長官  
 要港ニ在テハ要港部司令官之ヲ行フ

第六條 此ノ法律ハ防禦營造物ノ設ナシト雖之ヲ設クルコトニ決定シタル  
 箇所ニ於テ其ノ豫定各防禦營造物ノ各突出部ヲ連結スル線ヲ基線トシ第  
 二條第三條及第七條第二項ニ準シテ定メタル區域ニ付テ亦之ヲ適用ス但  
 シ基線以内ノ區域ハ第一區ニ準ス

第二章 禁止及制限  
 第七條 何人ト雖要塞司令官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ要塞地帶内水陸ノ形  
 狀ヲ測量、撮影、摸寫、摸寫、錄取スルコトヲ得ス

前項ノ規定ハ要塞地帶外ト雖第三區ノ境界線ヨリ外方三千五百間以内ノ  
 區域ニ於テ之ヲ適用ス  
 第八條 要塞司令官ハ要塞地帶内ニ入り兵備ノ狀況其ノ他地形等ヲ視察ス  
 ル者ト認メタルトキハ之ヲ要塞地帶外ニ退去セシムルコトヲ得

第九條 要塞地帶ノ第一區ニ屬スル水面ニ在リテハ要塞司令官ノ許可ヲ得  
 ルニ非サレハ漁獵、採藻及艦船ノ繫泊、土砂ノ掘鑿ヲ爲スコトヲ得ス  
 第十條 第一區内ニ於テ新設スルコトヲ得サルモノ左ノ如シ

一 不燃質物ヲ以テ築造セル家屋及倉庫  
 二 不燃質物ヲ以テ築造セル竈爐  
 三 不燃質物ヲ以テ築造セル高さ二尺ヲ超ユル諸般ノ築造物

第十一條 第一區内ニ於テ要塞司令官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ新設スルコ  
 トヲ得サルモノ左ノ如シ  
 一 埋葬地  
 二 水車及風車

三 井  
四 容易ニ他ニ移動スヘカラサル器械器具ヲ備フル家屋  
五 生垣及木造ノ圍牆  
六 第十條第一號ニ於テ禁セサル家屋及倉庫  
第十二條 第二區内ニ於テ要塞司令官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ新設スルコトヲ得サルモノ左ノ如シ

一 埋葬地  
二 不燃質物ヲ以テ築造セル家屋及倉庫  
三 不燃質物ヲ以テ築造セル高サ三尺ヲ超ユル諸般ノ築造物  
第十三條 第一區第二區内ニ於テ要塞司令官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ屋内ト屋外トヲ問ハス累積スルコトヲ得サルモノ左ノ如シ

一 第一區内ニ於テハ高サ五尺、第二區内ニ於テハ高サ八尺以上ニ累積スル不燃質物及石灰類  
二 第一區内ニ於テハ高サ一丈三尺、第二區内ニ於テハ高サ一丈七尺以上ニ累積スル薪炭及竹木材

第十四條 第一區第二區内ニ於テハ要塞司令官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ家屋倉庫及諸般ノ築造物ヲ改築増築スルコトヲ得ス  
第十五條 各區内ニ於テ要塞司令官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ新設若ハ變更スルコトヲ得サルモノ左ノ如シ

一 地表ノ高低ヲ永久ニ變更スル土工即チ堆土、開鑿等  
二 溝渠、鹽田、排水及灌水  
三 公園、育樹場、森、林、及菓園及桑茶畑  
四 耕作地

第十六條 各區内ニ於テ陸軍大臣ノ許可ヲ得ルニ非サレハ新設若ハ變更スルコトヲ得サルモノ左ノ如シ  
堤塘、運河、道路、橋梁、鐵道、隧道、永久棧橋

第十七條 本章ノ禁止制限ニ違背シ新設改築増築變更シタル家屋倉庫其ノ他ノ築造物又ハ累積物等ハ違背者ヲシテ期限ヲ定メテ之ヲ除去セシメ地形ノ變更ニ係ルモノハ之ヲ復舊セシメ期限内ニ除去復舊セサルトキ若ハ其ノ期限内ニ終了スルノ見込ナキトキ又ハ其ノ方法宜シキヲ得サルトキハ官廳ニ於テ自ラ之ヲ執行シ又ハ第三者ヲシテ之ヲ執行セシメ其ノ費用ヲ義務者ヨリ徵收スルコトヲ得

前項義務者ニ於テ負擔スヘキ費用ハ國稅ノ滯納處分ニ關スル規定ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得但シ政府ハ國稅ニ次キ先取權ヲ有ス  
本條ノ處分ハ第十六條ノ違背者ニ就テハ陸軍大臣之ヲ爲シ其ノ他ノ違背者ニ就テハ要塞司令官之ヲ爲スヘシ

第十八條 地帯ノ禁止制限ニ關シ官廳ノ處分ニ服セサル者ハ其ノ處分ニ就テ告示又ハ通達ヲ受タル日ヨリ三十日以内ニ陸軍大臣ニ訴願スルコトヲ得但シ訴願中處分ヲ執行ヲ妨ケス

第十九條 陸軍大臣ハ場合ニ依リ或區域内ニ限リ特ニ本章禁止制限ノ全部若ハ一部ヲ解除スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ解除ノ事項及其ノ區域ヲ告示スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ解除ノ事項及其ノ區域ニ對シテハ之ヲ適用セス但シ陸軍防禦營造物ノ地帯及第七條第二項ノ區域ニ對シテ海軍防禦營造物ノ地帯及第七條第二項ノ區域ト相關聯スル場合若ハ

軍港要港又ハ海軍用地ニ係ル場合並陸軍用地カ海軍防禦營造物ノ地帯及第七條第二項ノ區域ト相關聯スル場合ニ於テ當該陸軍官廳若ハ海軍官廳カ此ノ法律ニ揭クル許可又ハ承認ヲ爲シ若ハ第十九條ノ處分ヲ爲サントスルトキハ陸軍官廳ハ當該海軍官廳ニ海軍官廳ハ當該陸軍官廳ニ協議スルコトヲ要ス

第二十一條 陸軍以外ノ官廳ニ於テ第七條第九條第十一條乃至第十五條ニ掲グル事項ヲ爲サントスルトキハ要塞司令官ノ承認第十六條ニ掲グル事項ヲ爲サントスルトキハ陸軍大臣ノ承認ヲ受クルコトヲ要ス

第三章 罰則  
第二十二條 第七條及第九條ノ禁ヲ犯シタル者ハ十一日以上一年以下ノ重禁錮又ハ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス第八條ニ依リ要塞司令官ニ退去ヲ命セラレ其ノ命ニ從ハサル者亦同シ

第二十三條 第七條及第九條ノ罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス  
第二十四條 第十條乃至第十三條第十五條及第十六條ニ違犯シタル者ハ二圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十五條 第十四條ニ違犯シタル者ハ五圓以上一圓九十五圓以下ノ科料ニ處ス  
第二十六條 要塞地帯各區及第七條第二項ノ區域ヲ標示スル爲ニ設ケタル標石、標木、標札ノ類ヲ移轉シ又ハ之ヲ毀壞シタル者ハ十一日以上二月以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ過失ニ出テタル者ハ五圓以上一圓九十五圓以下ノ科料ニ處ス

第四章 雜則  
第二十七條 要塞地帯創設告示ノ當時新設、變更、改築、増築中ニ係ル家屋倉庫築造物等ニ就テハ其ノ新設、變更、改築、増築ニ限リ此ノ法律ノ禁止制限ヲ適用セス  
第二十八條 要塞地帯各區及第七條第二項ノ區域ヲ標示スル標石、標木若ハ標札ノ類ヲ建設スル爲ニ要スル敷地ノ買収及使用ニ關シテハ明治二十三年法律第二十三號陸地測量標條例ノ規定ヲ準用ス  
第二十九條 此ノ法律ノ施行ニ關シ必要ナル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

附則  
第三十條 此ノ法律ハ軍港規則及要港規則ノ效力ヲ妨グルコトナシ  
第三十一條 明治三十一年勅令第七十六號ハ此ノ法律ニ依リ第三條又ハ第六條ノ告示ヲ爲シタル箇所ニ限リ其ノ效力ヲ失フ  
（政府委員陸軍次官中村雄次郎君演壇ニ登ル）  
○政府委員（中村雄次郎君） 本案ヲ提出致シマシム理由ハ、砲臺堡壘等此防禦物ノ防禦ノ威力ヲ安全ニ保チマセウト申シマスルニハ（早川龍介君能ク分リマセウカラ成ルベク大聲ニ願ヒマス）ト呼フ）承知致シマシム、此堡壘砲臺等ノ防禦ノ威力ヲ安全ニ保チマセウト申シマスルニハ、其周圍ノ地ニ制限ヲ設ケマシテ、此堡壘砲臺等カラ大砲等ヲ撃チマスルトキニ邪魔ニナリマセウヤウニ、其周圍ノ地ニ制限ヲ設ケテ置キマスルコトガ、誠ニ必要デアリマスルンデゴザイマス、ソレテ此周圍ノ地ニ制限ヲ設ケマスルノハ、一ツニハ即チ砲臺カラ撃チマスル所ノ大砲若クハ小銃ノ妨ノヤウニナルモノハ、豫メ制限ヲ設ケテ、其防ヲシナイヤウニ致シテ置キマス、又一ツニハ此堡壘砲臺ヲ攻メ



マズルモノヲシテ、便利ヲ得セシメナイタメニ又制限ヲ設ケテ置キマスルノ  
デゴザイマス、此我邦ノ保護砲臺等モ追々出來上リマスルニ付イテハ、其周  
圍ノ地ヲ區劃ヲ致シマシテ、其制限ヲ設ケマスルコトガ、誠ニ必要ニナリマ  
シタノデゴザイマス、即チ本案ヲ提出致シマスルモ是ガ理由デゴザイマスルマ  
貴族院ニ於キマシテ、是ニ修正ガゴザイマスルガ、此修正ニハ、悉ク同意ヲ  
致シマシタノデゴザイマスルカラ、豫メ其コトモ申上ゲテ置キマスデゴザイ  
マス  
○議長(片岡健吉君) 格別質問ガゴザイマセネバ、議事日程第三、特別委員  
ノ選舉

第三 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉  
○恆松隆慶君(九十七番) 九名ノ委員ヲ議長ノ指名デゴザイマス  
○議長(片岡健吉君) 九名ノ特別委員ヲ議長ガ指名致シテ、御異議アリマス  
マイカ  
(異議ナシト呼フ者アリ)

○議長(片岡健吉君) 御異議ナケレバ、其通致シマス— 議事日程ノ第四、登  
録稅法中改正法律案第一讀會、議案ノ朗讀ヲ省略致シマス  
第四 登録稅法中改正法律案(政府提出) 第一讀會  
登録稅法中改正法律案

登録稅法中左ノ通改正ス  
第十一條 特許ニ關シ登録ヲ受クル者ハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ  
一 讓渡又ハ共有 每一件金十圓  
二 質入 每一件金五圓  
第十二條 意匠ニ關シ登録ヲ受クル者ハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ  
一 讓渡又ハ共有 物品一類毎ニ金二圓  
二 質入 物品一類毎ニ金一圓  
第十三條 商標ニ關シ左ノ事項ノ登録ヲ受クル者ハ左ノ登録稅ヲ納ムヘシ  
一 讓渡又ハ共有 商品一類毎ニ金十圓  
附則

此ノ法律ハ明治三十二年七月一日ヨリ施行ス  
○議長(片岡健吉君) 格別御質問ガアリマセネバ、議事日程第五、特別委員  
ノ選舉

第五 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉  
○早川龍介君(二十七番) 例ニ依ッテ九名ノ委員ヲ議長ノ指名デ宜シイ  
○星亨君(二百二十四番) 贊成  
○議長(片岡健吉君) 九名ノ特別委員ヲ議長ガ指名シテ、御異議アリマス  
マイカ  
(異議ナシト呼フ者アリ)

○議長(片岡健吉君) 御異議ナケレバ、其通致シマス、議事日程ノ第六、事  
業公債及鐵道公債特別會計法中改正法律案第一讀會、議案ノ朗讀ヲ省略致シ  
マス  
第六 事業公債及鐵道公債特別會計法中改正法律案 第一讀會  
(政府提出)  
事業公債及鐵道公債特別會計法中改正法律案

第一條 鐵道敷設法、事業公債條例、北海道鐵道敷設法及臺灣事業公債法  
ニ依ル公債金ノ會計ハ特別トシ一般ノ歲入歲出ト區別スヘシ  
○早川龍介君(二十七番) 是モ直チニ議長指名ノ九名ノ委員ニ付セラレタイ  
○議長(片岡健吉君) 格別御質問ガナケレバ、議事日程ノ第七、特別委員ノ  
選舉

第七 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉  
○早川龍介君(二十七番) 先例ニ依リテ議長指名ノ九名ノ委員ニテ宜シイ  
(早川君ニ贊成ト呼フ者アリ)  
○議長(片岡健吉君) 九名ノ委員ヲ議長ガ指名シテ、御異議アリマスマイカ  
(異議ナシト呼フ者アリ)

○議長(片岡健吉君) 御異議ガナケレバ其通り致シマス、議事日程ノ第八、中  
央工業試驗所設立ニ關スル建議案、議案ノ朗讀ヲ省略致シマス  
第八 中央工業試驗所設立ニ關スル建議案(脇坂行三  
君外三名提出)  
中央工業試驗所設立ニ關スル建議案

今ヤ國運ノ昌勢ト最モ離ルヘカラサル諸工業ノ發達ヲ企圖セムニハ學術的  
試驗ノ實行ヲ獎勵スルヨリ要且急ナルハナシ近時歐米諸國ニ於テ工業ノ進  
歩結果トシテ特種モ及ハサルノ勢ハ邦ノ畢竟學理ニ基ク試驗ノ成績ヲ應用セ  
ル結果トシテ外ナラザルナリ願フニ本邦ノ工業タル或ハ遠ク古來ノ陳舊遺法ヲ  
墨守シ未ダ曾テ改良ノ實績ヲ見サルモノ多ク今ニシテ之カ獎勵ノ策ヲ講セ  
スハ復タ救フヘカラサルノ悲境ニ陥ルノ虞アリ又或ハ主トシテ模範ヲ外  
國ニ取レル新規ノ工業ノ如キモ亦之カ獎勵ノ方便ヲ得サレハ製造ノ方法若  
クハ操作ニ於テモ必ス外國ニ於ケル進步ト背馳スヘキカ故ニ遂ニ世界競争  
場裡ニ角逐スルヲ得サルニ至ルハ數ノ免レサル所ナリトス乃チ是等工業ヲ  
シテ今後自然ノ成行ニ放任シ更ニ保護獎勵ノ方案ヲ講スルコトナクハ其  
ノ發達隆盛ハ得テ望ムヘカラサルナリ政府ハ速ニ案ヲ具ヘテ帝國議會ニ提  
出セラレムコトヲ望ム依テ茲ニ建議ス  
(恆松隆慶君演壇ニ登ル)

○恆松隆慶君(九十七番) 此案ハ私ハ提出者ノ一人デゴザイマシテ、少シク  
私ガ主トシテ調べタ場合ガゴザイマス、此場合理由ヲ述ベテ、本案ニ  
御贊成ヲ仰ガウト思ヒマス、我邦ノ隆盛ト共ニ最モ關係アル工業ノ發達ヲ圖  
ルコトデゴザイマスルガ、是ニ學術經驗ノ實行ヲ獎勵シテ往カネバナラヌ事  
柄デアリマスルノニ、我邦ハ遠ク古來ノ慣行ニ依リマシテ、未ダ曾テ改良ノ  
實績ヲ見ルト云フコトハ、甚ダ乏シイ有様デゴザイマス、ウレデ此場合中央  
試驗所ヲ置キマシテ、サウシテ總テ工業ニ關スルモノ、又分析ナリ、或ハ試  
驗ナリヲ受ケマシテ、公ニ世ノ中ニ示シマシテ、サウシテ此發達ヲ圖リタイ  
ト云フノデゴザイマス、今中央土質調査所ハアリマスルケレドモ、此處デナカ  
ナカ礦物デモ調査スルト云フデモ、是デ足ラズト云フ譯ニ往カナイデゴザ  
イマス、又陶器其他ノコトニ於キマシテモ、此石ナラバ陶器デ何ニ用ヒラ  
レムカ、又陶器ノ竈ハドウデアルカ、之ヲ改良セナケレバナラヌ、山林ハ追々  
濫伐シ來ル、石炭ヲ使ッテハドウデアルト云フヤウナコトヲ試驗モ、段々シ  
テ、サウシテ工業ノ發達ヲ大ニ圖リタイト云フノデアリマス、既ニ此コト  
ハ農商高等會議ニ諮問セラレテ、其トキニモ參同可決セラレタト云フコトヲ  
聞イテ居リマス、政府ニ於テモ斯ウ云フコトノ計畫モアルヂヤラウト思ヒ

中央工業試驗所設立ニ關スル建議案(脇坂行三  
君外三名提出)  
中央工業試驗所設立ニ關スル建議案

中央工業試驗所設立ニ關スル建議案(脇坂行三  
君外三名提出)  
中央工業試驗所設立ニ關スル建議案

中央工業試驗所設立ニ關スル建議案(脇坂行三  
君外三名提出)  
中央工業試驗所設立ニ關スル建議案

中央工業試驗所設立ニ關スル建議案(脇坂行三  
君外三名提出)  
中央工業試驗所設立ニ關スル建議案

中央工業試驗所設立ニ關スル建議案(脇坂行三  
君外三名提出)  
中央工業試驗所設立ニ關スル建議案

中央工業試驗所設立ニ關スル建議案(脇坂行三  
君外三名提出)  
中央工業試驗所設立ニ關スル建議案

中央工業試驗所設立ニ關スル建議案(脇坂行三  
君外三名提出)  
中央工業試驗所設立ニ關スル建議案

中央工業試驗所設立ニ關スル建議案(脇坂行三  
君外三名提出)  
中央工業試驗所設立ニ關スル建議案

中央工業試驗所設立ニ關スル建議案(脇坂行三  
君外三名提出)  
中央工業試驗所設立ニ關スル建議案

マス、是ハ工業試験所ヲ設置シテ、國家ノ隆盛ヲ圖リタイト云フ考デゴザイ  
マスルテ、是等相當ノ豫算ヲ立テラレンコトヲ望ムノデアリマス、又當期議  
會ニ於キマシテハ、農事ノコトナリ、水害ノコトナリ、色々問題ガ現レテ居  
マスルケレドモ、未ダ工業ノシテ見ルベキ所ノ案ガ出テ居リマスカラ、此  
案ヲシテ工業ノタメニ通過シテ見ルベキ所ノ案ガ出テ居リマスカラ、此  
ナリ、其權衡ヲ得ルコトデアラウト思ヒマス、是ニ附キマシテ段々調ベタ  
條モゴザイマスルケレドモ、今日議會切迫ノ場合デゴザイマスカラシテ、ソ  
レハ速記録ニ載セテ置クコトニ致シマス、ドウカ御賛成ヲ願ヒマスデゴザイ  
マス

(參照)

本所成立ノ上施行スヘキ試験ノ要領ヲ舉ケレハ左ノ如ク  
一 分析試験  
一般官民ノ依頼ニ係ル分析試験ヲ施行シ且工業用諸原料製品等ヲ分析試験  
シテ普ク殖産ノ原要ヲ明示シ以テ本邦工業ノ發達ヲ補益セント期ス抑此  
種ノ分析試験ハ從來農商務省地質調査所ニ於テ施行セシモ其規模狹少ニシ  
テ諸設備ノ不完全ナルハ勿論擔當ノ技術者ハ僅ニ五六名ニシテ地質調査所  
ノ事業ニ必要ナル分析ヲ實行シ得ルニ過キサルヲ以テ未ダ一般實業者ノ冀  
望ヲ充タスニ足ラサルハ即チ工業獎勵ノ機關トシテ試験所ノ設立ヲ必要ナ  
リトスル一理由ナリトス

二 工業の試験

方今内國ニ興起セントスル彼ノ主トシテ模範ヲ外國ニ取ル新規ノ事業ノ如  
キハ或ハ豫メ原料ノ試験調査ヲ要シ或ハ時ニ製品ノ分析ヲ要スルハ論ヲ  
タス殊ニ本邦固有ノ工業中ニハ必ス確實ナル試験ノ成績ニ基キテ改良ノ  
法案ヲ立ツヘキモノ亦尠カラサルヘント信ス例令ハ陶磁器漆器染物油蠟類  
紙燃料酒等ノ如キ一トシテ更ニ精細ノ調査ヲ經大ニ改良ヲ施スヘキ缺漏ヲ  
遺サハルモノナシ蓋シ此等工業ハ概ネ舊襲ヲ逐テ古法ヲ墨守シ未ダ曾テ  
何等ノ學理ニ據テ其道ニ進ムヘキヤヲ知ラサルモノトス乃チ之カ發達改進  
ノ方法ヲ考究スルヨリ要且急ナルハナカルヘシ今一例トシテ本邦重要ノ物  
産タル陶磁器ニ就キテ之ヲ說示セントス

陶磁器

陶磁器ハ内地ノ需用ヲ充實スルノミナラス本邦輸出工産物中重要ナルモノ  
ニシテ本品ノ産額及ヒ輸出額ハ近年多少ノ増減アリト雖モ現今一箇年五百  
萬圓内外ノ産額ト貳百萬圓許リノ輸出額ヲ有ス然レ共其製造業ハ萎靡振ハ  
ス殊ニ輸出額ニ累年増進セサル事實アルハ諸多ノ原因アルヘシト雖モ要ス  
ルニ製造者カ製造品ノ改良ト製造經濟ノ講究ニ力ヲ致サハルニ職由スルコ  
トハ毫モ疑フ容レサル所ナリ今其改良試験ヲ急務トスル要點ヲ舉ケレハ  
一 磁器素地品質ノ改良  
輸出品トシテ稍々日用の品種ニ屬スルモノハ概ネ品質脆弱ニシテ使用ニ適  
セサルノ非難アリテ假令其價格ノ低廉ナルモ却テ需用ヲ減スル傾向アルハ  
目下ノ狀勢ナリ故ニ各地製産品ニ付品質改良ノ試験ヲ施行シテ品質ノ脆弱  
ナル原因ヲ覈究シ之カ改良ノ案ヲ立ツルノ必要アリ

燒窯ノ改良

從來ノ燒窯ハ凡テ燃料ノ薪材ヲ用ユルモノニシテ漸次其價格騰貴シ生産費  
ノ三割内外ヲ占ムルニ至リ營業者ノ大ニ困難ヲ感スル所ナリ故ニ石炭ノ如  
キ燃料ヲ應用スルノ必要アレトモ古來陶磁器業者カ慣用セル燒窯ハ此種ノ

燃料ニ適セサルヲ以テ更ニ窯ノ構造ニ關シ千試万驗ノ後適宜ノ考案ヲ立テ  
サルヘカラス其他成形改良器械應用ノ如キモ試験ノ必要アリ  
要スルニ右等ノ試験ハ學理ヲ基礎トシ實驗セサルヘカサルヲ以テ適任ノ  
技術者トシテ多ク試驗費ヲ要シ到底實業家一己ノ事業トシテハ實行シ能ハサ  
ルハ勿論ナリ

漆器

漆器ハ美術品トシテ將タ實用品トシテ其需用尠カラズ内國ノ産額ハ毎年貳  
參百萬ニシテ海外輸出ニ供スル者ハ百萬圓ニ上リタルコトアリ  
從來海外へ輸出セシモノハ美術品甚タ少ク實用品多キモノナリ例ハハ小  
箱類卷簾入盆類皿ノ類其大部分ヲ占メタリ而シテ是等ハ何レノ國民ト雖モ  
實用ニ供シ得ヘキモノナルニ拘ハラズ其貿易ノ振ハサルハ蓋故ナキニアラ  
ス近來獨乙國ニ於テ我漆器ノ模造品ヲ盛ニ製出シ之ヲ廉價ニ販賣スルカ  
如キハ其一因ナルヘシ開ク所ニ依レハ獨乙國ニテ毎年輸出スル模造漆器ハ  
百萬弗ヲ超ユト云フ果シテ然ラハ我輸出額ノ二倍以上ノモノヲ該國ヨリ輸  
出スルモノト知ルヘシ漆器ハ本邦特有ノ產物ナリト稱スルニモ拘ハラズ今  
此境遇ニアルハ豈遺憾ナラスヤ我漆器貿易ノ振ハサルハ商業取引上ノ缺點  
ヨリモ寧ク技術上ノ缺點ニ存ス今試ミニ其主ナル缺點ヲ掲ケン

本邦漆器ノ主ナル缺點

漆地ノ反拗シ易キ事  
會際ノ離解シ易キ事  
耐水性ニ乏シキ事  
下地ノ剝脫シ易キ事  
物品ノ不揃ナル事

然ルニ獨乙國ノ製品ハ「ホール」製ナルヲ以テ甚堅牢ナリ且學理ヲ應用シ大仕  
掛ニ機械ヲ使用スルタメ製品廉ナルノ利アリ本邦ニ於テモ學理的研究ヲ應  
用シテ堅牢ナル物品ヲ多量ニ且廉價ニ製出スルノ策ヲ講セサル可カラズ  
以上說述スル所ハ僅ニカ喩例ニ過キサレトモ總テ本邦ノ事業タル一モ前  
述ノ如キ缺點ヲ免カル、モノナキハ工藝品貿易不振ナル一大原因ナリトス  
是豈政府獎勵ノ道ヲ講究セサルノ結果ナリトセサルヲ得ンヤ須ク歐米諸國  
ノ例ニ倣ヒ工藝試験所ヲ設立シテ汎ク實業家ノ依頼ニ應シ諸工業ノ原料製  
品等ノ分析ヲ施行セシムルノミナラス更ニ進ムテ諸工業ノ發達改進ノ基礎  
シメンコトヲ切望ス

田口卯吉君(百四番)

唯漠然建議スルノハ宜シウゴザイマセウガ、併ナガラ之ヲ完全ナルモノニ  
ヤウト云フト、餘程ノ費用ヲ要スルモノ、總テノモノヲ試驗シテ遺ルト云フ  
話ニナツタナラバ、餘程此歳入歳出全計ノ上カラ考ヘテ見ナケレバナルマイ  
ト思ヒマス、例ハ東京ニ於テ水道ノ鐵管ヲ試驗シテ貫フトカ、木材ヲ試驗  
ハ、ドノ位ノ歳出費額ヲ掛ケネバナラマカ、ナカノ工業ニ對スル試驗ヲナスノ  
トハ出來ナイコト出得ルト云フコトニ附テ御考ガアル位マデノ費額ヲ以テ、  
ラ、ソレヲ一應伺ハナケレバ、贊成モ反對モ何モ出來ナイ  
○恆松隆慶君(九十七番) 是等ノコトヲ完全トシテ、何デモ斯デモ其試験ヲ  
スルト云フコトニハ、隨分其豫算ノ金額モ要スルデアゴザイマスケレドモ、先  
ヅ概シテ工業の試験トカ、陶器トカ、漆器トカ云フヤリナ事柄ヲ主トシテ

致シタイ、サウ驚クベキダケノ金額ヲ要スルコトハナイト思ヒマス、是等ノコトハ詰リ委員ニデモ付託ニナリマスレバ、其委員會ニ於テ取調ベテ所ハ、十分述べルト致シマス

○西村淳藏君(八十二番) 恆松隆慶君ノ御希望モゴザイマス、旁々委員付託ニ願ヒマス、而シテ是ハ九名トシテ、議長ノ指名ヲ仰ギマス

○議長(片岡健吉君) 委員付託ノ動議ガ出マシタカラ、採決致シマス

○議長(片岡健吉君) 委員付託ニ御異議ナシト呼フ者アリ

○議長(片岡健吉君) 御異議ガナケレバ九名ノ特別委員ヲ議長ガ指名スルコトニ致シマス

○議長(片岡健吉君) 議事日程ノ第九、農事試驗本支場事務擴張ノ建議案、議案ノ朗讀ヲ省略致シマス、脇坂行三君

第九 農事試驗本支場事務擴張ノ建議案(脇坂行三君外一名提出)

農事試驗本支場事務擴張ノ建議案 農業ノ振興ヲ期スルハ國家ノ急務ニシテ農事試驗場ノ必要ハ論ヲ俟タズ明治二十六年初メテ農事試驗場ヲ官設セラレタレトモ其ノ規模小ニシテ未ダ充分ナル成績ヲ收ムルニ足ラズ重要ナル農産物ノ試作製造試驗及病蟲害試驗ノ如キハ特ニ之カ急要ヲ感ス故ニ現在ノ試驗場ヲ擴張シ試驗場ノ改良擴張費及特用作物委託試驗費ニ適當ナル増額ヲ爲サハ以テ農事試驗場ノ真正ナル目的ヲ貫徹シ必ズ大成績ノ擧カルヘキモノアルヲ信ス政府ハ之ニ必要ナル豫算ヲ調成シテ速ニ議會ニ提出セラレムコトヲ望ム

脇坂行三君演壇ニ登ル

○脇坂行三君(八十二番) 本案提出ノ理由ヲ述べマスレバゴザリマスルガ、此農事試驗場ヲ擴張ノ建議ヲ出シマス趣意ハ、既ニ滿場諸君モ御承知ノ如ク、凡ソ國力ノ基源トナリマス所ノモノ、最モ此農産物ニ依ルモノデゴザリマスルコトハ、喋々ノ辯ヲ跋ヌ譯デゴザリマスルモノ、或ハ露佛獨ノ歐米各國ト雖モ或ハ米國ノ如キ隆盛ナル國デゴザリマスルモノ、或ハ露佛獨ノ歐米如キデゴザリマスルモノ、總テ農産物ノ最モ收穫ニ依ツテ、大イニ隆盛ヲ來タシテ居リマスコトハ、調査ノ結果ニ依ツテ見受ケラレルモノデゴザイマス、コレ故ニ我國ノ如キト云ヒマスレバ、固ヨリ此農業ニ從事致シマス所ノ者ハ、我全國ノ人口ヲ調査致シマス所デモ、人口ガ四千二百二十萬餘ノ人口デゴザリマシテ、其中農業ニ從事關係シテ居ル所ノモノガ、二千八百萬人餘モ人口デアアルノデゴザイマス、即チ人口ノ十分ノ七八、農事ニ從事ヲ致シテ居ル所ノモノガ位シテ居ルノデゴザイマス、又此農事ノ發達ヲ求メ、農産物ノ最モ隆盛ヲ圖ラウト致シマスルニハ、之ガ改良ヲセケレバナラヌノデゴザイマス、農事ノ發達ヲ來シ、農産物ノ多額ノ收入ヲ得ヤウト致シマスルニハ、ドウシテモ農事ノ試驗ト云フモノ、擴張ヲ圖ラネバナラヌデアアル、農事試驗場ノ最モ必要ヲ感ジマス所以ハ、此農事試驗場ヲ設ケマシタマシテ是マデ沿革ヲ簡單ニ述べルコトガ必要デアラウト思ヒマス、我邦ニ於キマシテ此農事ノ治十一年九月農出シマシタハ、何時デアアルカト云フコトヲ調ベマスレバ、明治十九年九月農商務省ガ始テ此東京府下ノ六箇郡ノ下ニ於テ、僅カニ一町八段歩程ヲ借受ケマシテ、サウシテ此所ニ此米麥等ヲ試作ニ致シマシテ、始メテ此試驗ノ端緒ニ附キマシタノデアアルノデゴザリマス、而シテ明治二十三年以來農商務省ノ農務局ニ於キマシテ、假試驗場ト云フモノヲ置キマシタノデゴザイマス、ソレカ

ラ明治二十六年ニ至リマシテ、勅令第十八號ヲ以テ農事試驗場ノ官制ヲ定メマシタノデゴザイマス、此場合ニ於キマシテハ、西ヶ原ニ本場ヲ設ケ、ソレカラ支場ヲ畿内、東奥、北陸、山陽、九州ノ六箇所ニ設ケマシタノデゴザイマス、然レモ、此本場ト支場ト設ケ、四箇所ト六箇所ト設ケマシタノデゴザイマス、事業ノ擴張ト云フモノハ出來テ居リマセヌノデ、即チ本員ハ第八議會ニ於キマシテ、尙ホ此支場ヲ増加シ、而シテ試驗場ノ規模ヲ擴張スルコトヲ政府ニ向ツテ建議ヲ致シマシタノデゴザイマス、此建議ヲ致シマシタ所ガ、政府ハ此支場ヲ増加スルト云フコトダケハ、之ヲ容レマシタノデゴザイマス、ソレデ引續キマシテ東海、山陰、陸羽ノ三箇所ニ於キマシテ、明治二十九年ヨリ支場ニ設ケタ譯デゴザイマス、然レドモ唯本支場ハ設カリマシテ、僅ニ設備ハ出來マレバ、其實ヲ云ヒマスレバ、擴張ノ方針ハ一向ニ執ツテ居ラヌノデゴザイマス、此農事試驗場ニ向ヒマシテ、經費ヲ費シテ居リマス所ノ統計ヲ申上ゲマスレバ、明治二十六年ニ二萬九千八百二十九圓餘デアリマス、同シク二十七年ニ於キマシテハ、同額デアリマス、レ、二十八年ニ於キマシテハ三萬六千七百七十八圓餘、二十九年ニ於キマシテハ六萬四千零四十圓餘デアリマス、デ以テ今日マデ日ヲ送ツテ居ルコトデゴザイマス、ソレデ斯ノ如キ費額ヲ以テ農事本支場ノ試驗場ノ經過ヲ經テ居ルコトデゴザイマス、サウシテ此農事試驗場ニ於キマシテ試驗ノ方針ハ、ドウ云フ具合ニ取ツテ居ルカト申シマスレバ、第一ニ研究ノ試驗、應用ノ試驗、模範ノ試驗、此三段ノ大區別ヲ立テ、サウシテ其試驗ノ方法ヲ取ツテ居ルコトデゴザイマス、然レドモ其當時今日マデニ至リマスマデハ、專ラ此應用ノ試驗ヲ取ツテ居ルコトデゴザイマス、御承知ノ如ク凡ソ此農産物ノ物質ト云フモノハ、或ハ東京地方ニ於テ繁殖ヲ來シ、收穫ノ多數ヲ得ル所ノモノデゴザイマシテモ、是ノ近畿ノ方ヘ持ツテ往キマシテハ、或ハ其土質風土習慣等ニ適合致シマセヌタメニ收穫ノ好結果ヲ得ヌデアアル、又近畿地方ニ於テ其結果ヲ得ル所ノ産物デゴザイマシテモ、是ヲ九州地方ニ於テハ、又強チニ適合スルト云フコトハ認メラレヌノデゴザイマス、ソレ故ニ此農事試驗ノコト、云フモノハ、專ラ此中央カリデハイケマセヌ、ソレ故ニ或ハ此是マデ設ケテゴザイマス所ノ中央部ニ試驗トナツテ居ル——本支場即チ試驗トナツテ居ル所ノ各地方ニ於テ、適度ナル所ノ試驗ヲ致シマシテ、サウシテ以テ大イニ此農事試驗ノ好結果ヲ得ル所ノ方針ニ取ル譯デアリマシテ、サウシテ以テ大イニ此農事試驗ノ好結果ヲ得ル取ル所ノ仕事ト云フモノハ、實際ニ未ダ其十分ナル所ノ美果ヲ得ルマデニハ至ツテ居ラヌノハ、誠ニ遺憾ナ次第デゴザイマス(「簡單々々」ト呼フ者アリ)簡單ト云フ御説モゴザイマスカラ、簡單ニ成ルベク述べヤウト思ヒマスケレドモ(「簡單」ト呼フ者アリ)今日ハ最モ此農事ノコトニ附イテハ、著目ヲセバナリマセヌ、諸君、過日ハ本院ニ於テドウデゴザイマシタカ、農事試驗場ニ向ツテ今日ハ擴張セネバナラヌト云フコトハ、私共ハ甚ダ熱心ニ信ズルモノデゴザイマス、如何トナレバ農者ニ向ツテハ租稅ヲ増加致シマシテ、或ハ農民ノ苦境ニ迫ラントスルガ如クニ心配ヲセネバナラヌ今日デアリマスカラ、一方ニ納稅ノ義務ヲ負ハスト共ニ、一方ニハ農産物ノ實ヲ擧ゲルヤウナ方針ヲ取リテ後タヌコトデゴザイマス(「簡單々々」ト呼フ者アリ)ソレ故ニ吾々ハ此農民ニ義務ヲ負ハスト共ニ、又一方ニハ農産物ノ實ヲ擧ゲルヤウナ方針ヲ取リタイト云フノ目的デゴザイマスカラ案ヲ提出致シマシタ譯デアアルノデアアル





シテ政府ハ追加豫算ヲ一期線ノ敷設工事に付イテ提出ヲサレマシタ、併ナガラ是ハ僅ニ五十萬圓バカリデアラフテ、事實ノ上ニ於ケル豫算ノ不足ハ、政府ノ當局者ガ十分ノ責任ヲ負シテ概算セルモノ、無論實測ハ未ダ終ラテ居ルノデハアリマセヌカラ、例ヘバ中央線ト申スト、東ノ方カラ甲府マデ、名古屋ノ方面カラ多治見マデノ間ノ實測ハ致シタ、其手心ニ依テ彈テノ山嶽河川ノ險易等ノ實況ヲ彼等ガ多年熟練セル工事ノ上ノ眼識ヲ以テ豫定致シマシタ其金額、或ハ其中ニハ全ク實測ヲ終ラズモモゴザイマスガ、其未ダ終ラザルモノハ、即チ十分精密ナル調査ヲ遂ゲタ上ニ於テ、現ニ此一期線ノ豫算ノ中ニ五千三百萬圓ノ不足ヲ告ゲテ居ルト云フコトハ、明ニ内外朝野ノ共ニ認メテ居ル所ノコトデアアル、然レニ政府ハ豫定期限ノ中央外通過マテ今日ニ至ラテ、マデ此五千三百萬圓ノ不足ノ金額ヲ如何ニ仕拂フカ、毎年度ニ割當テ、ドレダケノ工事をドレダケツ、ノ金額ヲ仕拂フテ行クカト云フ豫定ヲ立テナイノデアアルカ、而シテ今日ニ至ルマテ仕拂ヒマシタ金額ハ、僅カニ一千八百萬圓ト云フコトデアアル、若シ此五千三百萬圓ノ不足ノ金額ヲ概算致シマセストモ、曾テ定メマシタ豫算ノ六千萬圓ニ八百萬圓ヲ加ヘタモ、之ヲ十二箇年ニ割當テ、見マシテ、六千萬圓ト致シマシタ所デ、一箇年五百萬圓ノ金額デアリマスカラシテ、今日ニ至ルマデノ六箇年ニ五、六、三、千、萬、圓ノ仕拂フシテ居ラネバナラヌ筈デアアルノニ、事實ニ於テハ一千八百萬圓餘シカ拂フテ居ナイト云フ實況デアアル、而シテ尙ホ豫算ノ不足セルモノ六千八百萬圓ノ外ニ五千三百萬圓アリトスレバ、政府ハ今後如何ニシテ是ノ金額ヲ仕拂フテ、第一期線ノ工事を豫定期限内ニ竣功シテ、鐵道敷設法ト云フ法律ヲ有效ニ施行スルト云フ實ヲ盡シ得ルカ、是ハ單ニ理窟ノ上ニ於テ爭フノミデナイ、吾々ハ事實ノ上ニ鑑ミテ、憂慮ニ堪ヘヌモノガアルノデゴザイマス、ソレカラシテ獨リ此豫定ノ線路ノ總テニ手ヲ著ケテ居ル、三十七年ト云ヘル期限ニ竣功シ能ハザルノミナレバ、各線ノ各年度、配當其實況ニ於テ、既ニ三十一一年マデニ竣功シナケラバ、北陸線、井原線、如キキ豫定期限ヲ經過シテ、而シテ尙ホ僅カニ北陸線ノ如キ此項ノ追加豫算ニ依テ見ルト、三十四年度マデニ一切ノコトガ結了スルト云フノデ、大體線路ノ開通ヲ限ノ前ニナシ得ルト云フコトヲ政府委員ガ明答シ得ルノミデ、篠ノ井聯絡線ノ如キハ、嘗テ中央線ノ工事が極メテムツカシイカラ、之ヲ東ノ方面ハ王子カラ手ヲ著ケテ、彼ノ大難場タル山脈ヲ切開キ、又西ハ名古屋カラ手ヲ著ケ、木曾ノ山嶽ヲ經來ツタデハ、豫定ノ明治三十七年マデニ工事を爲シ遂グルコトハ出來ナイカラ、其中央ニ於テ信越線ヨリ分岐シテ、篠ノ井線ヲ長野縣鹽尻マデ工事をナシ遂ゲテ、鹽尻ヨリ甲府ト木曾ノ方面ニ雙方ニ仕事ヲサセテ後、始メテ豫定期限内ニ中央線ヲ竣功シ得ベシト云フ豫測テ手ヲ著ケマシタ、篠ノ井線ノコトハ其時分ニハ二期線デアラフデアアルガ、中央線ノ工事を抄取ラセルタメニ、政府ガ進ンデ一期線ニ線ノ上ゲタ篠ノ井線ト云フモノモ、豫定期限三十二年ヲ經過シタル今日、未ダ篠ノ井ヨリ手ヲ著ケタト云フバカリデ、其工事が抄取ツテ居ナイ、此項追加豫算書ニ書載セテアル明細書ヲ見レバ、三十五年ニ至ラテ、始メテ鹽尻マデ通スト云フコトニナツテ居ルノ左様ノコトデアアル、政府ガ篠ノ井線ヲ線ノ上ゲタ目的ヲ達スル所ニ附イテモ、政府ハ如何ニ此五千三百萬圓ノ不足ヲ支拂フカ、其方策ヲ立テテ居ラナイ、故ニ吾々ハ鐵道敷設法ト云フ法律ヲ有效ニ施行セシムルガタメニ、政府ニ望ム意ト、併テ此一期線ニ編入サレテ居ル鐵道ニ總テノ鐵道敷設

法ニ存在スル理由ノ中ニ於テ、最モ日本ノ軍事上ニ於テ殖産工業上ニ於テ、必要缺クベカラザル線路デアアル事柄ヲ當テ定メタ十二箇年ノ豫定期限ニ竣功シナケレバナラヌト云フ鐵道ニ對スル必要ノ事柄ヲ政府ニ向ツテ、是非共此豫定期限内ニ此線路ヲ竣功セシムベキ法案ヲ提出シテ、豫算ヲ根柢ヨリ改メテ、而シテ毎年度ニ於ケル公債募集ノ額ヲ定メテ、毎年度ノ工事をシテ今日ノ如ク逡巡躊躇ノ有様ニ立住ラサセズシテ、當初此鐵道敷設法ヲ制定シタルノキノ意思ヲ貫徹スルダケニ順序ヲ法ヲ定メ、豫算制定ノコトヲ手ヲ著ケラレンコトヲ希望スルコト云フノガ、私ノ趣意デアリマス、故ニ政府ハ此建議ヲ容ル、以上ハ、是非共豫定期限内ニ此工事を竣功セシムベキハ、當然デアアルト云フコトヲ茲ニ明言シテ置キマス、而シテ滿場諸君ニ向ツテ敢テ切望致シマスガ、是ハ固ヨリ當然ノコトヲ私ガ申スノデゴザイマスカラ、最初申シマス如ク建議杯ト云フコトハ、既ニ可笑シイト自ラモ思フテ居ルヤウナコトデアリマスカラ、此案ハ黨ハクハ諸君ニ於テ即決セラレンコトヲ希望致シマス

○星亨君(二百二十四番) 予ヨリ質問ガアリマス、唯今ノ建議ニ附イテ即決ナント云フコトガアリマスガ、此建議案中ニ「竣功ヲ完成スヘシ」トアリマスガ、竣功ナラバ即チ完成モ這入ッテ居ルヤウニ思フガ「竣功ヲ完成スヘシ」トアルノハ、ドウ云フ譯デアリマスカ

○降旗元太郎君(二百四十五番) 自分ハ建議案ヲ持參シテ居リマスガ、文致ガ不適當ノコトガアッタナラバ、ソレハ意味ヲ御採リニナランコトヲ希望致シマス

○星亨君(二百二十四番) 尙ホ今日此斯ウ云フ書物ガ(此時書類ヲ示シ)出テ居ルガ、即チ是ハ憲政本黨ニ於テモ、憲政黨ニ於テモ、國民協會ニ於テノ菊蕚版ノトマルデ違フテ、所謂石版摺デドウカ御賛成下サレタイト云フモノガ出テ居リマスガ、是ハ此建議案提出者ノ御承知ノモノデゴザイマスカ

○降旗元太郎君(二百四十五番) ソレハ拙者ニ於テ與リ知ラヌコトデアリマス

○星亨君(二百二十四番) 尙ホ伺ヒタイガ、過日ノ鐵道國有ノ建議ノ中ニ、既ニ幹線ヲ完成セシメヨト云フコトガ云ツテアルガ、此建議ハソレト一事再議ニナリハセヌカ、其邊ハドウナツテ居リマスカ

○降旗元太郎君(二百四十六番) 是ニ附イテハ唯今マデ自分ガ申述べタ趣意ガ、此建議案ノ趣意デゴザイマスカラ、ソレデ御了解ヲ請ヒマス

○星亨君(二百二十四番) 既ニ完成セヨト云フ建議案ガ出テ居ルノニ、又之ヲ出スト云フノハ……

○降旗元太郎君(二百四十六番) ソレハ現在政府ノナス所ノ實況ガ、甚ダ緩慢デ、鐵道敷設法ヲ有效ニ施行スル所以ノ道デアナイト云フ所カラ、此案ヲ出シタデアリマス

○星亨君(二百二十四番) 議長、モウ一應伺ヒタイ——唯今ノ建議ノ趣意ハ、之ヲ要スルニ政府ノ緩慢ヲ批難スルト云フコトニナリマスカ

○降旗元太郎君(二百四十五番) 緩慢ヲ批難スルト云フコトダケガ目的デアナイ、目的ハ豫定期限内ニ竣功シサヘスレバ、達スルノデアリマス

○星亨君(二百二十四番) 宜シクゴザイマス、私ハ議長ニ建議ヲ致シマスガ、今日ナンダカ議院外カラシテ、議事日程ノ第十第十一ト云フモノニ向ツテ、命令書ヲ發シテ議員ニ配ツテアルノデゴザイマスガ、是ハ何レ議長等ニ於テ、何ニカ他人ニ通券デモ御渡シニナツテ、外トカラ之ガ配ツタモノデアアルカ、何

シニシロ議場ノ神聖ヲ瀆スト思ヒマスカラ、宜シク御取調ヲ願ヒマス

○議長(片岡健吉君) 本案ニ附イテ...

○星亨君(二百二十四番) ソレヲ早ク御調ヲ願ヒタト

○議長(片岡健吉君) 取調ベテ置キマス

○星亨君(二百二十四番) ソレナラ反對ノ意見ヲ申シマスガ即決ト云フコトハ必要ノナイコトデアアル、即チ今質問シタ如ク「竣功ヲ完成スヘシ」ト云フ支

字ガアルノデアアル、誠ニ本院カラシテ政府ニ出ス所ノ文案トシテ、餘リ見ツトモナイ文字ヲ附ケルコトハ、吾ミノ希望シナイ所デアアルノデアアル、又今申

スヤウニ、既ニ國有鐵道ノ建議案ガ可決致シテ、其中ニ此一部分ガゴザイマ

スカラ、直チニ可決致サレバ、一事再議ト云フコトニナルカ知レマセヌシ、

又其文案等モ修正シナケレバナラヌト考ヘマスカラ、私ハ茲ニ委員付託ノ勳

議ヲ提出致シマス

○恆松隆慶君(九十七番) 即チ議長指名ノ九名ノ委員ニ付託スルト云フコトニシテ、後トノ案モ併セテ付託ニナルコトヲ希望致シマス

(賛成ヤヤ)ト呼フ者アリ

○議長(片岡健吉君) 贊成ガアリマスカラ、委員付託説ニ附イテ採決致シマス、本案ヲ委員ニ付託スルニ同意ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者

(分リマセヌ)ト呼フ者アリ

(少數ヤヤ)ト呼フ者アリ

○星亨君(二百二十四番) 決テ御採リニナルナラバ...

○議長(片岡健吉君) 少數ト認メマス

○星亨君(二百二十四番) 分ラヌノデアアル、分ラザレバ立ツコトガ出来ナイ

(異議ガアル)ト呼フ者アリ、又面倒ニナリマスカラ、議長ノ言ツダコトガ分

ラヌノデアアルマスカラ、シヤカリ分ルヤウニシテ、決テ御採リ下サイヤマシ

○議長(片岡健吉君) 然ラバモウ一應宣告致シマス、本案ヲ委員付託ニセウ

ト云フ諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○議長(片岡健吉君) 多數ト認メマス、本案ハ委員付託ニ決シマシマス、議事

日程ノ第十一、鐵道敷設法中改正法律案第一讀會、議案ノ朗讀ヲ省略致シマス

第十一 鐵道敷設法中改正法律案(菊池九郎君外三 第一讀會)

鐵道敷設法中改正法律案

明治二十五年法律第四號鐵道敷設法中左ノ通改正ス

第二條五號中「石川縣下金澤」ノ下ヲ經テ「富山縣下高山」ノ下「新

潟縣下直江津及新發田山形縣下酒田ヲ經テ秋田縣下秋田及船川」ヲ加フ

同條七號及八號ヲ削除ス

同條十四號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

一青森縣下野邊地ヨリ大湊ニ至ル鐵道

同條二十七號中「香川縣下」ノ下「琴平ヨリ高知縣下高知ヲ經テ須崎」ヲ「高

松ヨリ德島縣下脇町近傍」ニ改ム

同條二十八號中「德島縣下德島ヨリ」ノ下「前項ノ總路ニ接續ス」ヲ「高知縣

下高知愛媛縣下松山ヲ經テ八幡濱ニ至ル鐵道及本線ヨリ分岐シテ高知縣下

須崎ニ至」ニ改ム

第七條一號中「愛知縣下名古屋ニ至ル鐵道」ノ下「及本線ヨリ分岐シテ靜岡

縣下岩淵ニ至ル鐵道」ヲ加フ

同條二號中「石川縣下金澤」ノ下「ヲ經テ」ヲ削リ「富山縣下高山」ノ下「新

潟縣下直江津及新發田山形縣下酒田ヲ經テ秋田縣下秋田及船川」ヲ加フ

同條三號中「青森縣下下野邊地ヨリ」ヲ削リ「青森縣下青森」ヲ加フ

同條十一號中「鹿兒島縣下鹿兒島ニ至ル鐵道」ノ下「及本線ヨリ分岐シテ宮

崎縣下宮崎及延岡ヲ經テ大分縣下大分ニ至ル鐵道」ヲ加フ

同條十四號中「内德島縣下德島ヨリ高知縣下高知愛媛縣下松山ヲ經テ八

幡濱ニ至ル鐵道

一四國豫定線ノ内德島縣下德島ヨリ高知縣下高知愛媛縣下松山ヲ經テ八

幡濱ニ至ル鐵道

一山陰豫定線ノ内兵庫縣下豐岡ヨリ鳥取縣下鳥取ニ至ル鐵道及米子ヨリ

鳥根縣下松江ヲ經テ濱田ニ至ル鐵道

一鳥羽豫定線ノ内巖手縣下黑澤尻若ハ花卷ヨリ秋田縣下横手ニ至ル鐵道

一羽越豫定線ノ内山形縣下米澤ヨリ新潟縣下新發田ニ至ル鐵道

一總武豫定線ノ内千葉縣下曾我ヨリ木更津ニ至ル鐵道

一奧羽豫定線ノ内青森縣下野邊地ヨリ大湊ニ至ル鐵道

一山陰及山陽聯絡豫定線ノ内廣島縣下廣島ヨリ島根縣下濱田ニ至ル鐵道

第八條中「二十箇年」ヲ「十六箇年」ニ改ム

第九條中「六千萬圓」ヲ「二億一千万圓」ニ改ム「十二箇年」ヲ「十六箇年」ニ改

第十四條ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ地勢險惡ノ區間ハ帝國議會ノ協贊ヲ經テ工事中其ノ建設費ニ對シ一

箇年五朱以下ノ補助ヲ爲スコトヲ得

○恆松隆慶君(九十七番) 今ノ委員ハ九名デセウナ

○議長(片岡健吉君) 恆松君カラ九名ト云フ建議ガアリマシマスカラ、其通ニ

致シマス

○恆松隆慶君(九十七番) 宜シウゴザイマス

(藤金作君演壇ニ登ル)

○藤金作君(百二十六番) 諸君、本案ニ附イテ正誤ヲ致ス所ガアリマスガ

ラ、ドウツ御直シヲ願ヒマス、原案ニ「第一條五號」ト云フ其「五」ノ字ヲ「二」

字ニ改ムル(大聲ヲ願ヒマス、原案ニ「第一條五號」ト云フ其「五」ノ字ヲ「二」

字ニ改ムル)ト云フ者アリ、第二條五號中「トアル」トアルヲ「八號」及九

號ト改ムル、其次ノ行ニ「第十四號」トアルヲ「第十五號」ト改ムル、此一ツ

間ヲ置イテ「第二十七號」トアルヲ「第二十八號」ト改ムル、其次ニ「二十八號」

トアルヲ「二十九號」ト改ムル、第九條中「五千萬圓」ヲ「貳億壹千萬」ト

アル文字ノ間ニ「八百」ト云フ二字ヲ入レマス、貳億壹千八百萬圓トナスノデ

ス、デ本案ヲ提出致シマシマス理由ハ、詳細ニ陳述致シマスレバ、連モ一日

二日デハ述終ルコトガ出来マセヌカラ、餘程簡單ニ述ブルコトニ致シマス、

就キマシテハ其理由等ハ一々述ベズシテ、必要ナル要項ノ處ダケヲ述ベマス、

ト云フト、八王子ヨリ名古屋ニ至ル鐵道、是ハ中央線デアリマス、敦賀ヨリ

富山ニ至ル鐵道、直江津ヨリ新發田ニ至ル鐵道、北越線、福島ヨリ青森

ニ至ル鐵道、奥羽線、京都ヨリ錦織ニ至ル鐵道、山陰及山陽聯絡線、三原ヨリ赤間

ニ至ル鐵道、海田市ヨリ吳ニ至ル鐵道、同上、佐賀ヨリ佐世保長崎ニ至ル鐵

道、同上、

至ル鐵道、同上、

至ル鐵道、同上、

至ル鐵道、同上、

至ル鐵道、同上、

至ル鐵道、同上、

至ル鐵道、同上、

至ル鐵道、同上、

至ル鐵道、同上、

至ル鐵道、同上、

道九州線、熊本ヨリ三角ニ至ル鐵道九州線、以上ノ十一線路ヲ敷設スルコトニ定メラレテアルノデアリマス、然ルニ直江津ヨリ新發田ニ至ル北越線京都ヨリ舞鶴ニ至ル近畿線、高田ヨリ和歌山ニ至ル同上、三原ヨリ赤間ケ關ニ至ル山陽線、海田市ヨリ吳ニ至ル同上、佐賀ヨリ佐世保長崎ニ至ル九州線、熊本ヨリ三角ニ至ル敷設、以上ノ七線路ハ其敷設ヲ私設ノ許サレタリトアリマス、政府ノ全ク敷設スルコトニテ居ル所ノ線路ハ、八王子ヨリ名古屋ニ至ル中央線ト、敦賀ヨリ富山ニ至ル北陸線、福島ヨリ青森ニ至ル奥羽線、姫路ヨリ境ニ至ル山陰及山陽聯絡線、以上ノ四線路トナツテ居リマス、二十七年ニ尙ホ敷設ノ急要ヲ感シマシテ、篠ノ井ヨリ鹽尻ニ至ル鐵道中央線、八代ヨリ鹿兒島ニ至ル九州線、以上ノ二線路ヲ豫定線中ヨリ一期線中ニ繰上ゲマシテ、政府ノ敷設スル所ノモノハ、右ノ六線路ト今日デハナツテ居ルノデアリマス、又敦賀ヨリ富山ニ至ル北陸線、二十六年ニ著手致シマシテ、今年度末ニハ竣工スルノ運ビデゴザイマス、福島ヨリ青森ニ至ル奥羽線モ二十六年度ヨリ著手致シマシテ、青森碓氷關ノ二十五哩餘ハ、竣工致シマシテ、福島米澤ノ二十五哩餘ハ、本年末ニ竣工スルノ運ビデアリマス、都合六十哩餘ハ開業ガ出來マスガ、残り一百三十八哩ハ、今ヨリ何年ヲ期シテ竣工スルヤ、殆ド見當ガ付カヌ話デアリマス、既ニ前ノ日程ニ於テ降旗ガ建議致シマシタ所ノ場所ハ右ノ場所デアリマス、ソレカラ八王子ヨリ名古屋ニ至ル中央線、是ハ二十八年ヨリ著手ヲ致シマシテ、是亦何年ヲ期シテ成效ヲスルヤラ、甚ダ見込ノ立タナイ今日ノ政府ノヤリ方デアリマス、篠ノ井線ヨリ鹽尻ニ至ル中央線モ二十九年度ヨリ著手ヲ致シマシテ、僅カニ四十一哩、是マデノヤウナ緩慢ナルヤリ方デハ、兩三年掛ラナケレバ、到底竣工スル見込ハ立タヌト思ヒマス、八代ヨリ鹿兒島ニ至ル所ノ九州線ハ、三十年度ヨリ著手ノコトニ定メテ居リマスガ、本年度ハ著手ガ出來マセ、漸ク三十二年度ヨリ著手ニ運ニテ居リマス、姫路ヨリ境ニ至ル山陰及山陽聯絡線、是ハ三十三年度ニ著手スルコトニ定メテ居リマスガ、是迄ノ實例ニ照シテ考ヘレバ、是亦實際著手ガ出來ルヤラ、何時成功スルヤラ、甚ダ覺束ナイ話デアリマス、併ナガラ此鐵道敷設ノ資本ニ付キマシテハ、御承知ノ如ク金貨本位ノ結果、其他戰勝後ノ物價騰貴ノ變動ニ付キマシテ、鐵道敷設ノ資本金ハ、當初ノ豫定ヨリ二倍以上ヲ要スルコトニナリマシタノデアリマス、サウシテテ六千八百萬圓ト極メマシタ資本金ハ、今ヤ其豫算ハ五千三百萬圓増額ヲ致サネバ、當初ノ計畫通成功スルコトノ出來ナイ場合デアリトス、サウシテテ又私設ニ許可セシメ所ノ七線路中デ、直江津ヨリ新瀉ニ至ル北越線、殆ド是ハ竣工致シマシテ、新瀉田間ノ殘リテ居リマス、京都ヨリ舞鶴ニ至ル近畿線ハ、本年半ハ竣工ノ見込デアリマス、ソレヨリ高田ヨリ和歌山ニ至ル近畿線ハ、本年半ハ成功致シテ居リマス、三原ヨリ赤間關ニ至ル山陽線ニ至ル近畿線ハ、是モ本年半ハ成功致シテ居リマス、熊本市ト宇土間ハ、既ニ長崎ニモ三田尻マデハ既ニ開業ノ運ニナツテ居リマシテ、殘リ四十八哩ハ今工事著手ノ調査中デアリマス、佐賀ヨリ佐世保ニ至ル九州線ハ、成功致シマシテ、三角間ハ唯今工事中デアリマス、海田市與間ハ、是ハ私設會社ニ許可致シマシタガ、其會社ハ自ラ工事ヲヤルコトガ出來ナク、解散致シマシタカ、是モ政府ガ敷設セベナラヌコトニナツテ居リマス、其費用ハ百五十五萬圓餘デアリマス、右述セマシタ如ク一期豫定線中デ、政府ノ敷設スルモノガ七線路、竣工期限ハ三十七年度デアリマシタガ、ナカノ今日ノ場合デハ唯今速ベマシタ如キ資本ノ増額ヲ要シマス、其他政府ノ手運ビモ甚ダ緩慢デゴザイマシテ、ナカノ容易ニ成功致シマセヌカラ、曩キニ建議

ヲ致シマシタ次第デゴザイマスカラ、此他ノ點ニ於テハモウ私ハ詳シイコトヲ述ベマセヌ、又ソレノ此鐵道ニ付イテハ、各地速ニ此聯絡ヲ取ラナケレバ、運輸交通ノ上ニ於テ非常ノ不便ヲ來シ、且ツハ國防上ニモ甚ダ利益ナラ所ガゴザイマシテ、一々其各線路ニ附イテ必要ナル理由ハ、詳細此處ニ取調ベテ居リマス、是ダケノモノヲ詳細ニ述ベマスルト云フト、餘程諸君ニ於テハ此重大ナル鐵道ノ敷設法ノ議スルニモ拘ラズ、或ハ又簡短トモ何トカ云フ其御話モアラウト思ヒマス、私ハ其事ハ一々詳細ニ述ベマセシテ、是ヲ速記録ニ遺シマシテ、委員付託ニナツタ上デ、委員諸君ガ十分御調査ニナルヤウニ致シタイト思ヒマス、(贊成々々)ト呼フ者アリ)就キマシテ是ヲ概括シテ一言述ベテ置カケレバナラヌト思ヒマス、(澤山々々)ト呼フ者アリ)澤山デモゴザイマセウガ、凡ソ我帝國ニ於テ事業ノ急務ナルモノハ、何デアアルカト申シマスレバ、國防ノコト、又交通機關ノ一日モ速ニ全國幹線聯絡線ノ必要ナルコトハ、是ヨリ大切ナルコトハ、私ハナイト存シマス、因ツテ成ル限ダケ簡短ニハ述ベマスガ、其必要ナル點ヲ述ベマセヌト、政府ハ或ハ色ニ説クヲ以テ、此重大ナル所ノ案ニ向ツテ、反對ヲチヨコリ試ムルト云フコトガアリマス、一應其要點ダケヲ述ベマスガ、最早五分間カ十分間ノ間ニ述終ルト思ヒマス、御靜聽ヲ煩シマス、エー第一期線路ガ六千萬圓デアリマシタガ、其際調査ノ不行居テ八百萬圓ヲ加ヘルコトニナツテ居リマス、六千八百萬圓ガ當初ノ豫定額デアリマス、ソレカラ金貨本位ノ結果物價變動ノタメニ、五千三百萬圓ノ不足ヲ生ジ、竝ニ海田市ノ百五十五萬圓ヲ加ヘマス、第一期線ノ約束前ガ一億二千二百五十五萬圓餘ヲ要シマス、此資本ヲ以テマシテ九百三十三哩六十鎖ト云フモノヲ成功スル譯デアリマス、(簡單ニ願ヒマス)ト呼フ者アリ)「謹聽」ト呼フ者アリ)本案ヲ提出シマシタ所ノ必要ハ、斯様ナ譯デアリ、第二期線ヨリ一期線ニ繰入ル、モノガ十一線路デアリマス、此延長哩數ハ一千八百八十八哩、サウシマス、其建設費ノ豫算額ハ九千四百五十一萬七千四百三十五圓、サウシマス、前ノ一期線ト通計致シマシテ、其總哩數ハ一千九百九十八哩、サウシマス、其資本額ハ二億一千七百七十五萬六千七百七十九圓、平均八萬七千四百四十五圓トナリマス、此端數ヲ切上ゲマシテ、本案ニハ二億一千八百萬圓ヲ要スルコトニ改定案ヲ出シタノデアリマス、此大層ナル資本ヲ要スルニ於テ、如何ニシテ此目的ヲ達スルヤト云フ疑ガアルニ依ツテ、政府モ必ズ心配シ反對ヲ述ベラル、デゴザイマセウガ、諸君ノ中ニモ亦此御考ガアラウト思ヒマスガ、茲ニ一應述ベナケレバナラヌノハ、既設開業官線ハ御承知ノ如ク七百四哩六十一鎖デアリマス、其資本ニ費シタ金額ハ、四千七百五十一萬七千四百四十四圓、平均一哩六萬七千四百三十三圓ヲ要シテ居ルノデアリマス、三十年度ニ於キマシテ其益金ハ、四百九十四萬一千四百四十一圓、サウシマシマス、今日ノ政府ノ既設官線ト云フモノハ、所謂日本ノ正味ノ所ダケ切取ツテ居リマス、當初建設費ノ多額ナルニモ拘ハラズ、諸君ノ一割以上ノ純益ニ回ツテ居ルノデアリマス、政府ノヤリ方ハ隨分費額ヲ多敷要シマス、(純益ニ回ツテ居ルノデアリマス)ハ、何シデアアルカト云テ交通ノ便全國ノ中心正味ヲ切取ツテ敷設シタノデアリマス、此資本ニ依ツテ交通ノ便利ヲ得タモノハ、即チ其鐵道沿道ノ人民デアリマス、然ルニ均シク國家ノ資本ヲ以テ鐵道ヲ敷設シ、其沿道ノ人民モ幸福ヲ得テ、九州ニ於テハ宮崎鹿兒島ノ如キ、又東北ノ如キ、山陰各縣ノ如キ、未ダ鐵道ノ利益ニ浴スルコトガ出來ナイト云フハ、御互ニ如何デゴザイマス、甚ダ其地方ノ人ノ不便ヲ察



シテ、速ニ此鐵道ノ成功ヲ圖ルコトハ、共ニハ速ニ盡力セネバナラヌ  
コトデハゴザイマセカ、吾ガ居住スル所ハ、仕合ニモ鐵道ハ十分出來テ  
居ルノデアリマス、然レドモ同シ九州ニ於テ福岡縣ノ如キ、宮崎縣ノ如キ、  
之ヲ比較致シマスレバ、實ニ其地方ノ人ノ不幸ハ、誠ニ憫然ナ次第デアリマ  
スカラ、吾ハ進ンテ此不便ナ地方ニ鐵道ヲ早キ敷設致シタイル云フコトヲ  
努メテ盡力スルデアリマス、勿レテ斯ノ如キ不幸平均ナル、幸福ヲ得  
タモノト、不平均ナル偏頗ナル不便利ヲ今日感ジツ、アル、此人民モ同シク  
國家ノ義務ヲ負フテ居ルコトハ、如何デゴザイマス、斯ノ如キ利益  
ヲ以テ國庫ノ歲入トスルコトハ、暫ク止メテ、此政府ガ收メル所ノ五百萬圓  
ノ鐵道ノ歲入ハ、國民ト共ニ併テ造ツタ所ノ鐵道デアリ、此利益ヲ利用致シ  
マシテ、全國ノ唯今述ベマシタ所ノ線路ハ、如何ニシテモ速ニ敷設スルコト  
ヲ努メナケレバナラヌ、唯一部ノ人民ガ便利ヲ得テ、其利益ヲ歲入ニ取ルコ  
トハ、甚ダ私ハ不當デアルト云フコトヲ認メテ居リマス、就キマシテハ今日  
ノ官線ノ鐵道運賃ハ、一哩一錢一厘、三割六分、平均ニナツテ居リマス、之  
ヲ一哩一錢五厘トナシマスレバ、三割六分、平均ニナツテ居リマス、其三割  
六分ヲバ總收入金ノ九百七十二萬七千四百九十圓ト云フガ總收入金デゴザイ  
マスカラ、是ニテ度ニ割ニ分ラ増スコトナリマス、三百五十萬圓ノ純益ガ  
茲ニ生ジテ來ル譯ニナリマス、併テ八百五十萬圓ト云フ鐵道ヨリ生益ガ  
所ノ利益ガアル、斯ノ如キ利益ヲ利用致シマスレバ、年四朱ノ國債ヲ募リ  
マシテモ、二億一千万圓ノ鐵道資本ヲ募集スルコトハ、容易ナコトデアリマ  
ス、斯ノ如ク二億一千万圓ノ資本ヲ求ムルコトガ出來ル、其利子ヲ償フコト  
ガ出來マスナラバ、唯今述ベマシタ所ノ當初極メタ一期線ナリ、玆ニ今度十一  
線路ニ組入レヤウト云フ所ノ線路ハ、速ニ計畫スレバ、決シテ十年ヲ待タズ  
シテ成功セシムルコトガ出來ルデアリ、是ハ諸君ト大ニ盡力シ、政府ヲ  
シテ速ニ計畫セシムルハ、必要ノコト、私ハ信ジ、又吾ト同感ノ三十何名  
ノ提出者デアリマス、此鐵道ニハ殆ド我衆議院ニ於テハ、大過半數ノ同志者ガ  
アルノデアリマス、斯ノ如ク成功致シマスレバ、丁度既設ノ官線、將來一期  
線トシテ組入ル、所ノ鐵道ノ將來生益、二千五百五十五哩七十二鎖  
トナリマス、此國有鐵道ヨリ將來生益、即チ純粹ナル我帝國ノ  
財源ト認メルコトガ出來マシテ、一千万圓以上ノ歲入ハ、是ヨリ生ズルコト  
ハ、疑ヒアリマセヌ、而シテ鐵道ノ地方ノ富源ヲ増シマスルコトハ、普  
通ノ例ニ依リマシテモ、殆ド五倍以上ト云フコトハ、疑ナイコトデアリマス、  
致シマスレバ殆ド一億ニ近イ所ノ富ハ、此タメニモ確ニ認ムルコトガ出來マ  
スカラ、ドウゾ此點ニ於テハ諸君ハ遠慮ナク御贊成ニナツテ速ニヤルベシ  
ト云フコトヲ政府ニ御盡力ニナルヤウニ私ハ希望致シマス

(參照)

鐵道敷設法中改正法律案  
改正理由

第二條  
第六項

北陸線ヲ敦賀富山間ニ止メ別ニ北越線ヲ設ケ北陸線ト北越線トノ間北  
陸線及北越線ノ聯絡線ナル者ヲ設ケシハ曩ニ起業ノ計畫アリシ私設鐵  
道ノ名稱ニ基テ破壤セシ者ニテ甚ダ謂レシハ且北陸一道ヲ三分スル如キ  
ハ猥ニ古制ヲ破壤シ文明ノ國道タル鐵道經綫ノ體裁ヲ失フ者ナリ加  
之ナラス新發田秋田間ノ中繼セル爲メ日本海一帯ノ聯絡ヲ取ル能ハス  
故ニ本項ヲ改正シ南ハ湖東線ニヨリ京都大阪ニ通シ北ハ奥羽線ニ依リ

北海道ニ通シ北陸幹線ノ效用ヲ全フスルニ在リ  
第九項  
第六項改正ノ結果トシテ北陸北越聯絡線及北越線ヲ規定セシ第八第九  
第十五項ノ下左ノ一項ヲ加フ  
大湊ハ第五軍港ノ豫定地ニシテ國防上樞要ノ地域ナリ奥羽豫定線中大  
湊ニ至ル線路ヲ豫定セザリシハ甚ダ缺點ナリ故ニ加フ  
第二十八項  
阿讚ノ山脈ハ伊豫國境ヨリ鳴門海峽ニ向テ傾斜セリ故ニ琴平附近ニ在  
テハ地勢高峻普通式ノ軌道ヲ通スル能ハス寧ロ南轉シテ稍平易ナル清  
水谷線ヲ取リ高松ヨリ脇町附近ニ至リ次項ニ豫定セル德島ヨリ八幡濱  
ニ至ル四國幹線ニ聯絡スルヲ適當トス

第二十九項  
四國豫定線中伊豫土佐ノ間ニ豫定線路ナキハ甚ダ缺點ナリ且八幡濱ハ  
豐豫海峽ノ要地ニシテ西豫ノ首府ナリ故ニ八幡濱ト松山ノ聯絡ヲ取リ  
又松山高知ヲ聯絡シ而シテ德島ニ至リ一葦帶水取山ニ聯絡シ紀和線  
ニ依リ奈良京都ニ通シ南海線ニ依リ大阪ニ通シ關東豫定線タル宮崎線ニ聯絡  
ス要スルニ九州四國本州ノ東部ヲ聯絡スル一大幹線ヲ全フスルニ在リ

第七條  
第七項  
中央線ハ國防上主要ノ線路ニシテ最モ速成ヲ要ス然レトモ地勢險惡工  
事土木州第一ノ困難ナル區間ナリ今ヤ篠ノ井線ニ依リ中間起工ノ計畫  
アリト雖モ該線ノ甲府ニ進行スルハ高キヨリ低キニ至ル者ニシテ工事  
上甚ダ不便ナリ宜シク諏訪ニ止メ西轉シテ木曾谷ニ向ハシ更ニ中央  
豫定線ノ一ナル岩淵甲府間ノ線路ニ著手シ東篁子ノ峻嶺ニ向ヒ西諏訪  
ニ向フテ進行セシメ兼テ中央線ト東海道線ト聯絡ヲ取ルヲ要ス抑甲府  
岩淵ノ線路タル富士川ニ傍ヒ地勢平易最高百分一勾配ニシテ鐵道材料  
運搬ニハ最良ノ線路ナリ加之甲府ハ山梨縣ノ首府中央線中ノ大都市ニ  
シテ物貨輻輳鐵道經濟上有望ノ區間ナリ

第二項  
北陸線ノ內敦賀高岡間ノ百一十一哩三十七鎖ハ竣工シ已ニ開業セリ高岡  
富山間ノ十二哩二十一鎖モ本年度末ニハ竣工來三十二年度ノ初メニハ  
開業ノ豫定ナリ然ルニ富山ヨリ東京ニ出ル二百五十六哩ノ距離ナルニ  
モ拘ハラズ富山直江津間ノ中斷セル爲メ米原ニ迂回シ四百二十九哩殆  
ント二倍ニ近キ長距離ノ旅行ヲセハナラス又直江津ヨリ大阪ニ至ル  
三百二哩ノ距離ナルニモ拘ハラズ東京ニ迂回シ五百三十哩是又二倍以  
上ノ長距離ノ旅行トナリ實ニ不便ヲ極メリ如此切レノ鐵道ハ單ニ  
其地方ノ利益ノミナラス鐵道經濟ノ上ニモ亦不利ナリ故ニ引續キ  
富山直江津間ヲ起工シ信越線ニ聯絡セシメ北陸ノ西南部ヲ東京直通  
セシメ東北部ヲ京都大阪ニ直通セシメ漸次新發田秋田間ヲ起工シ奥羽  
線ニ聯絡セシメ近畿北海道間ノ一大幹線ヲ竣成スルヲ要ス且船川ハ羽  
後ノ良港ニシテ敦賀以北七尾ニ船川ニ海陸聯絡上必須缺ク可ラサル支  
線ナリ

第三項  
第二項改正ノ結果北越線ノ特定ヲ要セス削除ス



第四項  
 奧羽線ハ福島山形秋田青森四縣ヲ聯絡セル本州東北部ノ幹線ナリ延長  
 二百九十八哩餘ニ起テ工竣工セシムルハ青森磯ヶ關間ニ僅々三  
 十五哩六十鎖ノミヲ餘米澤間ノ三十七哩七十六鎖ハ本年三度未ニ竣工  
 豫定ナリト雖モ猶餘ス所二百里ノ七哩七十六鎖ハ本年三度未ニ竣工  
 竣工セシムルハ僅々五分ノ一強ニ過キス二百三十七哩ノ長距離如何  
 ニ督勵スルモ兩端二箇所ノ著手ニシテ豫定年限内ニ竣工シ得ル者ニ  
 ラス況ンヤ中間嶺院嶺ノ峻險アリ宜シク中央線工事ノ例ニ倣ヒ豫定  
 支線タル酒田新庄間ノ線路ヲ起シ材料運搬ノ便ヲ開キ中間ヨリ南北  
 へ向ヒ工事ヲ進行シ速カニ本線ヲ竣工セシムルヲ要ス且酒田支線タル  
 飽海郡ノ沃野ヲ貫キ鶴ヶ岡ヲ經最上川ニ傍ヒ勾配緩ニ山形米澤ノ咽喉  
 ヲ扼シ物貨輻湊鐵道經濟ノ上ニ於テモ實ニ有望ノ良線路ナリ

第十一項  
 日向ハ神武ノ舊都ニシテ氣候温土土地肥へ樹木繁茂實ニ九州ノ樂土ナ  
 リ惜クハ沿海六十里一ノ良港ナク西北東ノ三面薩肥豐ノ山脈ニ隔斷セ  
 ラレ交通殆ノ塞レリ宜シク鹿兒島線ヨリ分岐シ宮崎延岡ヲ貫キ大分  
 ニ至リ九州ノ東部幹線ヲ速成シ豐豫海峽ニ依リ四國ト聯絡ヲ取リ緩急  
 相應シ兼テ富源ヲ開發センコトヲ要ス

第十一項  
 本線ハ阿波ノ徳島ヨリ土佐ノ高知伊豫ノ松山ヲ經テ八幡濱ニ至ル  
 線路ニシテ所謂四國ノ中央線ナリ曩キニ二條ノ二十九項ノ改正條  
 下ニ陳フルカ如ク西北九州ノ東部幹線ニ聯絡ヲ取リ南東紀和線南  
 海線ニ聯絡ヲ取リ九州四國本州ノ三大陸陸ノ南部ヲ近距離間ニ接續  
 シ富源開發ニ國防ノ充備ニ偉大ノ關係ヲ有スル必須缺ク可ラサル  
 線路ナリ故ニ一期線ニ繰入速成スルヲ要ス

二期  
 山陰及山陽聯絡線タル姫路ヨリ鳥取ヲ經テ伯州ノ境港ニ至ル彼ノ  
 姫島線ハ山陰道ノ中部ヲ貫通シ姫路ニ於テ山陽線ニ接續スト雖モ  
 山陰道ヲ中斷シ一道彼我交通ノ便ヲ欠キ姫島線ヲシテ充分ノ效用  
 ヲ收メシムル能ハス故ニ東鳥取豐岡間ヲ聯絡シ播但線改鶴線京鶴  
 線ニ依リ福知山ノ營所舞鶴ノ軍港及大阪京都ノ市場ニ直通シシテ  
 西米子ヨリ出雲ノ松江ヲ經テ石見ノ濱田ニ至リ山陰全道ノ交通完  
 成シ一道ノ富源ヲ開發シ併テ緩急願應ノ便ニ供セントス是レ本線

三期  
 奧羽線ニ繰入速成スル所以ナリ  
 奧羽線二百九十八哩本州東北部ノ大山脈ニ界斷セラル中間一ノ聯  
 絡ヲ取ルナクハ東奥州線ニ交通スル者何レヨリスルモ四百五十  
 哩乃至二百哩ノ迂回ヲ取ラサル可ラス如此ハ奥羽線竣工ノ後ト  
 雖モ山脈ヲ隔テ依然吳越ノ觀ヲ脫セス當初奧羽線建設ノ效用ヲ  
 收ムル能ハス故ニ中間羽後横手ヨリ陸中ノ黒澤尻ニ聯絡ヲ取リ  
 羽線ノ效用ヲ全フセントス是レ本線ヲ一期ニ繰入速成スル

四  
 越佐二州共ニ仙臺師團ノ所管ニ屬ス而シテ中間奧羽北陸ノ二大山  
 脈ニ隔斷セラレ一朝有事ノ日緩急相願應スル能ハス是レ國防上ノ  
 缺典ナリ宜シク奧羽線ノ米澤ヨリ新發田聯絡ヲ取リ仙臺ノ師團ト  
 新發田旅團村松聯隊トノ氣脈ヲ通シ併テ羽越二州ノ遺蹟ヲ開發セ

五  
 富津觀音崎ハ帝國唯一ノ關門ナリ西ニ橫須賀線アリト雖モ東木更  
 津線ナキハ國防上ノ缺典ナリ曩ニ房總鐵道ニ本線ノ私設ヲ許可ス

六  
 入レ國防ノ缺ヲ補ハントス  
 曩キニ第二條第十五項改正條項ノ下ニ陳フルカ如ク大湊ハ第五軍  
 港ノ豫定地ニシテ北門ノ關鑰ナリ宜ク速カニ奧州線ニ聯絡ヲ取リ  
 國防ノ缺ヲ補フヘシ

七  
 出雲石見ノ二州ハ廣島師團ノ所管ニ屬シ濱田ハ聯隊ノ在ル所廣濱  
 ノ聯絡ヲ取緩急願應ノ用ニ供シ併テ山陰線ノ西端ヲ山陽線ニ接續  
 シ兩道ノ交通ヲ完全ナラシメントス是レ本線ヲ一期ニ繰入速成  
 ヲ期スル所以ナリ

第八條  
 現行法ハ二十六年度ヨリ向フ十二箇年ヲ以テ竣工期限トセリ然ルモ本年  
 度迄已ニ半期則チ六箇年ヲ經過セリ残り半期六箇年ニテ繰上線ヲ併セ悉  
 ク竣工セシムルコトハ事實上出來難カルヘシ故ニ四年ヲ加へ十六箇年ト  
 シ則チ來ル三十二年度ヨリ向フ十年間ニ於テ悉ク竣工セシムルヲ要ス

第九條  
 現行法ハ一期線ノ費用ヲ六千八百萬圓ト規定セリ然ルニ中央線、北陸線、  
 奧羽線、篠ノ井線、山陰及山陽聯絡線、鹿兒島線、六線路ニテ六千八百  
 萬圓ノ外ニ五千三百萬圓ノ不足ヲ生シ吳線ノ用ニ充ツル金額ハ皆無トナ  
 リ居レリ故ニ現行法定六千八百萬圓ニ充テ一期線六線路ノ費用不足  
 五千三百萬圓既定一期線吳線ノ費用五百五十五萬八千二百三十九圓一  
 千七百〇七萬五千六百七十四圓トナル端數ヲ切リ上ケ二億一千八百萬圓  
 ト改正ス

第十四條  
 本條ハ豫定線路ヲ私設鐵道會社ヘ敷設ヲ許可スルコトヲ規定セン條項ナ  
 リ私設許可セシ場合ニ於テハ鐵道ハ國家ノ運輸機關トシテ是迄重要ノ線路ヲ  
 私設許可セシ場合ニ於テ日本鐵道會社ハ山陽鐵道會社ニ九州鐵道會社ニ  
 四州乃至八州ノ補助ヲ給セリ是レ國家當然ノ義務ナリ文明進步ノ今日ハ  
 是迄ノ如キ保護政策ヲ取ルヲ要セサレトモ是迄豫定線路私設許可セシ  
 者ノ內中間困難ノ區間アルメ容易ニ工事ヲ進行スルコト能ハサル者ア  
 リ之レカ爲メ彼我ノ聯絡ヲ取ル能ハス恰モ國家ノ交通機關ヲ中止セシ者  
 ノ如シ結局國家ノ不利益ニ歸ス如此キ困難ナル區間ハ國家自身ニ敷設ス  
 ルモ二年乃至三年ハ建設費則チ資本ヲ坐食セシムルコト故寧ろ區間ヲ限  
 リ工事中其建設費ニ對シ一箇年五朱以下ノ割合ヲ以テ補助ヲ與ヘ工事ヲ  
 進行セシムルハ社會ノ現況ニ照シ適當ノ處置ト信ス

中央線  
 一山梨縣下甲府ヨリ静岡縣下岩淵ニ至ル  
 哩程 四十七哩六十鎖  
 建設費 四百八十四萬四千四百四十二圓

(一四)

北陸線  
一富山縣下富山ヨリ新潟縣下直江津及新發田山形縣下酒田ヲ經テ秋田縣下船川ニ至ル  
哩程 二百五十七哩四十九鎖  
建設費 千七百七十七万六千八百八圓

羽越線  
一山形縣下米澤ヨリ新潟縣下新發田ニ至ル  
哩程 六十三哩五鎖  
建設費 五百五十九万八千五百五十五圓

奧羽線  
一巖手縣下黑澤尻ヨリ秋田縣下横手ニ至ル  
哩程 三十五哩三十八鎖  
建設費 三百二十八万八千八百四十六圓

同  
一山形縣下新庄ヨリ酒田ニ至ル  
哩程 三十一哩五十六鎖  
建設費 二百七十九万七千七百三圓

同  
一青森縣下野邊地ヨリ大湊ニ至ル  
哩程 三十九哩四十鎖  
建設費 百二十九万九千二百十二圓

總武線  
一千葉縣下曾我ヨリ水更津ニ至ル  
哩程 十九哩五鎖  
建設費 六十万七千七百六十六圓

山陰線  
一兵庫縣下豐岡ヨリ鳥取縣下鳥取ニ至ル及米子ヨリ鳥取縣下松江ヲ經テ濱田ニ至ル  
哩程 百四十一哩七十鎖  
建設費 千五百三十五万五千四百二圓

山陰及山陽聯絡線  
一廣島縣下廣島ヨリ島根縣下濱田ニ至ル  
哩程 七十七哩  
建設費 七百三十六万八千三百四十九圓

四國線  
一德島縣下德島ヨリ高知縣下高知愛媛縣下松山ヲ經テ八幡濱ニ至ル  
哩程 二百三哩四十鎖  
建設費 二千三百三十九万九千五百五十二圓

九州線  
一宮崎縣下加久登ヨリ宮崎ヲ經テ大分縣下大分ニ至ル  
哩程 百六十八哩五鎖  
建設費 千二百四十八万八千八百圓

計十一線一千八百四十八万八千八百圓  
既定一期線 九千四百五十一万七千四百三十五圓

中央豫定線ノ内  
一東京府下八王子ヨリ愛知縣下名古屋ニ至ル鐵道

延長 二百二十二哩七十三鎖  
建設費 二千七百七十餘萬圓

同  
一長野縣下篠ノ井ヨリ鹽尻ニ至ル鐵道  
延長 四十一哩五十五鎖  
建設費 三百五十餘萬圓

北陸豫定線ノ内  
一福井縣下敦賀ヨリ富山縣下富山ニ至ル鐵道  
延長 百二十三哩五十八鎖  
建設費 六百六十餘萬圓

奧羽豫定線ノ内  
一福島縣下福島ヨリ青森縣下青森ニ至ル鐵道  
延長 二百九十八哩二十六鎖  
建設費 千二百七十餘萬圓

山陰及山陽聯絡豫定線ノ内  
一兵庫縣下姫路ヨリ鳥取縣下境ニ至ル鐵道  
延長 百三十五哩二十七鎖  
建設費 七百九十四萬圓餘

九州豫定線ノ内  
一熊本縣下八代ヨリ鹿兒島縣下鹿兒島ニ至ル鐵道  
延長 九十一哩六十一鎖  
建設費 八百二十餘萬圓

以上六線路建設費豫算總額延長九百三十二哩六十鎖  
六千八百萬圓ニ對シ  
五千三百萬圓ノ不足

山陽豫定線ノ内  
一廣島縣下海田市ヨリ吳ニ至ル鐵道  
延長 十二哩三十五鎖  
右建設費豫算額

外ニ  
一期線八十一線路建設費豫算額  
九千四百五十一万七千四百三十五圓

通計 二億一千七百七十五万五千六百七十四圓

○工藤行幹君(百二十五番) チョット唯今ノ提出者ニ質問發シヨクモ、此鐵道ノコトニ附イテ能ク御説明ニナクテ分リマシムルガ、私共ノ心算スル所ノモトハ、政府カテ豫テ示シテアル所ノ計算ニ依ルト、此四十年ノ頃ハ殆ド日本ノ公債ト云フモノハ、四億萬圓ニナルト云フ精算テアル所ヘ以テ來テ、先達ハ私設鐵道買収ト云フモノガ、建設ニナクテ居ル、是モ早晩何時カ知ラカ不クレトモ、既ニ出シタ以上ハ往々ト云フ覺悟ガ、ハハトウシテモ十億以上カ又二億萬圓ト云ヘバ、此日本ノ公債ト云フモノハ、ハハトウシテモ十億以上カボラナグレバカラヌ、然ラバ日本ノ人口ニ比較シテ見ルト、凡ソ一八ニ附カ

テ十圓以上ノ平均ノ公債ニナル、而シテ豫テ又政府ヨリ吾ニ示シテ居ル所ニ依リマス...

○藤金作君(百二十一番) 唯今ノ工藤君ノ御質問ニ御答致シマス、誠ニ是ハ簡單ニシテ且ツ分リ易イコト...

○工藤行幹君(百二十五番) モウ一ツ承リマスガ、本員ノ考ヘル所デハ(一)質問無用ト呼フ者多シ...

○西村淳藏君(六十二番) 私ハ質問ヲ止メテ、サウシテ直チニ委員付託ノ勳議ヲ提出致シマス...

○永井嘉六郎君(二十五番) 私ハ是ハ大問題デゴザイマスカラ、政府ノ方針ヲ伺ヒタイト思ヒマス...

(一)委員付託ガ成立ツテ居ル、無用々々又「ヤルベシヤルベシ」ト呼フ者多ク議場騒然...

○議長(片岡健吉君) 委員付託ノ説ガ成立ツテ居リマスカラ、委員付託ニ付テ採決致シマス...

○門馬尙經君(百六十九番) 此議事日程ノ第十二ト第十三トハ、全ク反對ノ議案デゴザイマス...

○議長(片岡健吉君) 今ノ星亨君ノ勳議ハ、十分ニ聽エマセヌガ...

○議長(片岡健吉君) 今ノ星亨君ノ勳議ニ賛成ガアリマス以上ハ、之ヲ採決致シマス...

○議長(片岡健吉君) 多數ト認メマス  
○議長(片岡健吉君) 唯今ノ動議ガ多數デアリマシタカラ、日程ノ第十二ト第十三ノ二案ヲ合セテ議題ニ供シマス——中村榮助君

第十三 第五回内國勸業博覽會開設ヲ東京ニ設置スルノ建議案  
(星亨君外十二名提出)  
第五回内國勸業博覽會開設ヲ東京ニ設置スルノ建議案  
ノ發達進歩ヲ促サムカ爲メ明治三十五年ヲ以テ開設シテ其ノ地點ヲ東京ニ定メムコトヲ望ム依テ政府ハ速ニ右ニ關スル豫算ヲ提出スヘキ  
右建議ス

○中村榮助君演壇ニ登ル

(中村榮助君演壇ニ登ル) 簡單ニヤリマス、諸君、第五回内國勸業博覽會ヲ三十五年ニ大阪ニ開設スルト云フ建議案ノ其説明ハ、單簡ナガラ其理由トシテ、是ニ記載致シテ置キマシテゴザイマス、併ナガラ是ニ足ラヌ所デアリ私ハ補ハウト考ヘルノデゴザイマス、諸君ニ御斷ヲ致シテ置キマスガ、私ハ學者デアリマセヌカラ、理窟ヲ立ベテ旨ク述べルコトハ出來ナイ、唯ソレテ事實ノ幾分ヲ述ベテ、諸君ノ御贊同ヲ乞ヒタイト考ヘルノデアリマス、此内國勸業博覽會ハ、始テ明治十年ニ東京ニ於テ開カレマシテ、續イテ十四年又二十三年ト三回、東京ニ於テ開カレマシテ、其次ギニ二十七年ニ京都ニ於テ一度開カレマシテ、大阪ニ於テハ一回モ開カレヌノデアリマス、唯ノ一度モ未ダ大阪ニ於テ開設ハシナイノデアリマス、ソレ故ニ私ハ第五回勸業博覽會ハ大阪ノ地點ニ於テ開設致シタイト云フノガ希望デゴザイマス、其大阪ノ諸君ノ御承知ノ如ク、我帝國ノ中央ニ位シテ人口輻輳ノ大都會デアリ、殊ニ商工業ノ中心デゴザイマス、商工業上ノ經濟ノ動力ハ大阪ニアリト云フモ過言デナイノデアリ、又大阪ノ商業ト云フコトニ付キマシテハ、天下ノ輿論ガ許ス所デアリ、此商業ニ附キマシテハ、到底大阪ト比較ハ出來ヌノデアリマス、殊ニ内外物産ノ聚散ノ中心ト云フノハ、即チ大阪デアリ、又新規ノ工業ノ發達、紡績トカ或ハ器械工業、普通ノ工藝品ニ於キマシテハ、他ニ比較スルニ、既ニ大阪ガ最モ中心トナッテ居ルノデアリマス、其證據ハ諸君モ御承知ノ通り煙筒ノ數ヲ御覽ナサシ、實ニ亞米利加ニ於ケルシカゴト云フガ如キ體裁ヲ成シテ居ルノデアリ、私ハ事實ヲ述べルノデアリマスガ、諸君モ御承知ノ如ク郵船會社ノ需用供給ノ度ヲ考ヘテ見マシレバ、事實上デ調ベテ見ルト、百ニ對スル八十デス、即チ東京ガ大阪ニ向ッテ需用スルモノガ百ニ八十ヲ需用シテ居ルノデアリ、何時モ大阪ヨリ東京ニ來ル所ノ汽船ハ、滿船デ出テ來ルノデアリ、大阪ニ向フ所ノ船ハ、始終空船デ歸ルト云フモ過言デナイノデアリ、尙ホ此博覽會ニ付キマシテハ、運輸交通ノ便ガ最モ必要デアアル、大阪ハ四通八達ニシテ、陸ニハ鐵道ガアリ、東西南北ニ通シテ居ルノデアリ、(東京ニモ通シテ居ル)ト呼フ者アリ、最モ海モ河モ船楫ノ便ガアルノデアリ、尙ホ又此貿易上ノ中心ト云フコトハ、今日ノ有様デハ大阪ヲ以テ中心トシナケレバナラヌ(ロイヤル)ト呼フ者アリ、是ハ則チ事實ノ上デ統計ヲ以テ諸君ノ御聽キ願ヒタイト思ヒマス、外國貿易ノ輸出ヲ關東ト關西トニ區別シテ表ヲ見マシルト(無用ヤ)ト呼フ者アリ、明治三十年ノ此一年間ノ輸出入共ニ合シマシタ高ガ、關西ノ方ニ於テハ二億千九百六十六萬餘圓ト云フ高ニナルノデアリ、ソレニ對スル所ノ關東ハ

(一七)

一億八千萬圓位シカナイノデアリマス、之ヲ以テ見テモ貿易ノ中心ト云フコトハ言ヘルノデアラウト思フ、殊ニ又築港成工ノ曉ニハ、上海ニ匹敵シテ優ト呼フ者アリ、殊ニ又勸業博覽會ノ必要トシマスル所ノ出品及出品人ノ數ヲ調ベテ見マシルト、是モ非常ニ差異ガアルノデアリ、此出品人ノ數ヲレバ、關西ノ方デ第四回内國勸業博覽會ノ近イ所ノ比例ヲ見マシ、關西ノ方デ出品人ノ高ヲ見マシルト、三萬九千七百三人、ソレカラ關東ノ方ノ出品人ノ總員ハ二萬四千七百八十八人デアリマス、斯ノ如ク關西ノ方ガ出品人ガ多イデアアル(ソレダカラ關東ヲ獎勵シナケレバナラナイ)ト呼フ者アリ、マダ此上出品ノ員數ニ付イテ調ベテ見ルト、大變ナ違デアリ、此出品ノ員數ヲ調ベカモ、關東ノ方デ出品人ノ數ガ關西ノ方デ出品人ノ數ガ十一萬七千二百四箇、又關東カラ出品致シマシタル員數ガ五萬八千八百九拾四箇デアリ、又出品ノ其價格上カラ調ベテ見マシ、關東ノ出品ノ賣額ハ六十一萬四千幾百圓デアリ、然ルニ關東ハ三十三萬八千幾圓ニシカナラナイノデアリ、斯ノ如ク此勸業博覽會ノ必要ナル所ノ出品及出品人ノ數ノ比例ニ依ッテ定ムルノデアリ、又此人口ノ數ト雖モ統計ノ上デ調ベテ見ルト、關西ト關東トハ非常ニ差ガアルノデアリマス、二十九年ノ統計ヲ見マシレバ、關西ノ人口ハ二千五百五十八萬幾人ト云フモノニナル、關東ハ千七百二十萬何千人ト云フモノデアリ、斯ノ如ク人口ノ上カラ比例ヲ舉ゲテモ、大イニ差ガアルノデアリ、大阪、殊ニ又大阪ノ地形カラ云ヘバ、大阪十里以內二十里以內ノ間ニ京都アリ、大阪アリ、又兵庫神戸アリ、奈良和歌山、延イテ東ハ名古屋カラ、西ハ廣島マデノ間ヲ言ヘバ、實ニ數十萬若クハ五萬六萬人ノ口ガ輻輳シテ居ル土地ガ澤山アルノデアリ、東京ニ數十萬若クハ五萬六萬人ノ口ガ輻輳シテ居ル土地ガ澤山アルノデアリ、(笑聲起ル)併ナガラ此多數ノ輻輳シテ居ル土地ヲ合セテ見レバ、遙ニ大阪ノ方ガ優ルノデアリ、斯ノ如ク何カラ比例ヲシテ見テモ、大阪ニ優ルモノガナイノデアリマス、ソレデハ是マデ此東京ニ引續キマシテヤリマシタ後ニ、京都デ開クコトキ、考テ見レバ、或ハ東京以外ニ開設スレバ、經費上ニドウデアルトカ、又ハ審查ノ上ニ困ルトカ云フコトハゴザイマシタガ、今日ハ既ニ京都ニ於テ一度開イテ、此事ニ付イテハ經歷上少シモ困難ハナイノデアリ、此御杞憂ハ御無用ト考ヘマス、ソレデ今日ハ既ニ東京ニ開設シタイト云フ建議モ出テゴザイマスカラ、ソレニ付イテハ反對者ノ御意見モゴザイマセウガ、既ニ此年ノ秋ニ農工商高等會議ニ於キマシテハ、三十五年ニ於テ内國勸業博覽會ヲ開キ、又四十年頃ニハ世界ノ所謂萬國大博覽會ヲ開クコト云フコトノ決議ヲシテ置キマシタ、此規模ヲ大ニシテ世界ノ大博覽會ヲ開クコト云フコトニナリマスレバ、無論此經濟ノ上ニ取ツテモ、色々今日ノ事情ヲ考ヘテ見ネバナラヌト思フノデアリマス、殊ニ又世界ノ規模ノ大ナルモノヲヤラウト思ヘバ、事切迫シテナカク、今日ヨリ二十五年ト云フモノハ、效果ヲ奏スルコトハ出來ナイト考ヘマス、故ニ三十五年ハ矢張り是マデ開設シ來リマシタ所ノ即チ内國勸業博覽會ヲヤルト云フコトニスレバ、是ハ矢張り是非共大阪ニ開クガ宜イ、又勸業ノ趣意カラ申シテモ、同シ處デ度々ナラバ、又名古屋ニ於テモ此大開クガ宜イト考ヘルノデアリマス(贊成)ト呼ビ、又「ナカ」ト呼ビ、益クナリマス、ソレ故ニ本員杯ノ考ヘバ、大阪ニ開クコトガ主ニナラ、旨イト呼フ者アリ、ソレデ今日ハ免ニ角此三府輪環ト云フコトガ主ニ、尙ホ私ハ續イテ陳辯致シタイコトガアルノデアリ、明治三十五年ノ八月三日、此第四回勸業博覽會開設以前ニ方リマシテ、政府カラ大阪京都二府ノ知事ヘ宛テ、第五回ハ大阪ニスルト云フ内定、即チ内示ガアルノデアリ、是ハ本員

ガ此處テ一應朗讀シテ、能ク御聽キテ願ヒタイト思ヒマス  
 第四回内閣勸業博覽會ハ來ル二十七年開設ノ期ニ候處明二十六年ニハ米國  
 シカガ府世界博覽會開設有之該會ニ參同ノ事務ハ二十七年中ニ漸ク結了可  
 致管ニ候得ハ各營業者ニ於テモ第四回ニ係ル出品ノ準備整ハサルヘク且ツ  
 該會經費ハ繼續費トシテ帝國議會ニ協贊ヲ經サルヘカラス旁以テ來ル二十  
 七年ニハ開設相成サル事情有之ニ依リ今般勅令第七十一號ヲ以テ右延期ノ  
 義公布相成候而シテ第四回以後ノ開設地ニ就テハ三府輪環ノ順序ニ依リ開  
 設ノ事ニ内決相成候其要ハ即チ勸業博覽會ノ開設地ヲ一定候テハ勸業ノ  
 本旨ヲ全フシ能ハサルノ嫌ナキニアル且ツ地ヲ換ヘテ開設相成度旨各所  
 ヲリ建議ノ次第モ有之政府ニ於テモ之ヲ是認相成候義ニ有之候其輪環開  
 設ノ順序ニ就テハ先ツ第四回ヲ京都ニ第五回ヲ大阪ニ開設シ先ツ第四  
 回ヲ京都ニ第五回ヲ大阪ニ開設シ(拍手起ル)爾後更ニ東京ニ復スル次第ニ  
 シテ其第四回ハ來二十九年ニ開設可相成内決ニ候條此旨特ニ及内示候也  
 明治二十五年八月日  
 農商務次官

京都府知事  
 大阪府知事  
 各通親展

追テ本文ノ通り内決相成候然ルニ開設地選定ニ關シ京都大阪共ニ人民總  
 代或ハ有志者團結シ以テ頻リニ相競爭候哉ニ相聞ヘ候右ハ徒ニ費用ト時  
 日ヲ空費候次第ニシテ甚ダ不可然義ニ候條本文ノ趣旨篤ト御内諭相成度  
 候也

斯ノ如キノ即チ内決豫約ト云フモノガアルノデアリマス、ソレノミナラズ諸  
 君ノ會議ニ於テモ亦同シク同意シテ居ルト本員ハ考ヘルノデアリ、ソレハ此  
 算算ヲ議ス即チ二十五年及六年ニ於テ其豫算ノ說明ニ於テモ、矢張同シ如キ  
 說明デアリ、即チ輪環ト云フコトガ書イテアルノデアリ、又說明ノミナラズ  
 政府委員ノ答辯ニ於テモ、此事ガ書イテアル、殊ニ此二十六年ノ會議ニ於キ  
 マシテハ、中野武營君ガ此事ニ附イテ質問セラレ、ソレニ政府委員ハ確カ  
 ニ内定ヲシテ約束ノ通ニ約束ヨシタノデアリト云フコトヲ其前此議場ニ  
 於テ答ヘテ居ルノデアリ、是ハ其時ノ議員諸君ハ皆速記録ガアルト考  
 ヘマス、果シテ然ラバ政府ニ於テモ此内決即チ豫定シタル事ヲバ、大阪ノ人  
 民ニ約束シテ居ルノデアリ、會議又其通り内決ヲシテ居ルノデアリ、然ルニ  
 モ拘ラズ是ヲ變更スルト云フコトデアラナラバ、諸君如何デゴザイマセウ  
 此議會ノ信用、政府ノ信用ト云フモノハ、如何ガナルノデアリカ、是レ即チ  
 是非共大阪ニセネバナラヌ所ノ理由デアラウト私ハ考ヘルノデアリマス、諸  
 君ドウカ此地方の感情ヲ止メテ、公平ノ御判斷ヲ以テ贊成セラレンコトヲ希  
 望スルノデアリマス、尙ホ此案ニ附キマシテハ、私ハ即決ヲ希望致シマス  
 (此時發言ヲ求ムル者多シ)

○利光鶴松君(百七十三番) 質問ガアリマスカラ、暫ク其處ニ御出デテ願ヒ  
 マス、第一ニ建議案者ニ問ヒマスルノハ、大阪ノ如キ車ガ二挺ト並シテ歩  
 ケナイヤウナ狹イ道デアッテ、一番廣イ道モ東京ノ一番狹イ所ノ道程モナ  
 イ所ニ博覽會ヲ開キ(東京ノ道ハ田圃ダト呼フ者アリ)第一場所ハ何處ニス  
 ノデアリカ、建議ヲスルナラバ、即チ是ノ場所ガアル位ノ腹案ハナケレ  
 バナラズ、其場所ハ何處カ、阿部野ニスルカ、天保山沖デアリカ(無用々々)  
 ト呼フ者アリ(議場騷然)博覽會ハ出來マス、第一ニハアナルカ(無用々々)博  
 覽會ハ各地ヲ持同ルガ宜シト云フコトデアリガ、ソレハ輕卒ノ至リデアリ、  
 併ナガラ各地ヲ持同ルノガ勸業獎勵ノ目的ヲ達スルニ適當デアルト主張スル

ニモ拘ハラズ、京都ト大阪ハ何デアリマスカ、二十里ハナイ所デアリマス、  
 同シ所ニ開カケレバナラヌト云フコトハ(議論デアリカラ答辯ヲシナクテ  
 モ宜イト呼ヒ案一特別ノ利益ガアル)ト呼ヒ議場騷然)第三ニハ此建議ノ中  
 ニ大阪ノ地タル我ガ帝國ノ中央ニ位シ商工業ノ樞區ニシテ水陸交通ノ便亦  
 最モ大ナリト云フコトガ一番ノ理由デアリ、然ラバ京都ノ如キ水陸ノ便モ  
 何モナイ猫ノ額ヲ見タヤウナ山ノ中ニ開イタハ、間違ヒデアルト言ハナケレ  
 バナラヌ、之ヲ第三ニ伺ヒタイ、ソレカラ一政府委員ノ聞クモ汚ラハシケレ  
 紙ヲ以テ、勅令デアリモアルカノヤウシ、京都大阪ノ人ハ左様ナモノガ有難イ  
 カ知ラヌガ、神聖ナル議場ハ汚ラハシ、ソレナモノハ聞キタグナイ(無用  
 ヲト呼ビ又質問デアリ)議論ニハ御答ヲ止メテ、御質問ダケハ御答ヲス  
 ○中村榮助君(二百七十番) 議論ニハ御答ヲ止メテ、後ノコトニ附イテハ  
 皆議論デアリマスカラ、御答ハ致シマセヌ、(ヒヤ)ト呼フ者アリ)第  
 一場所ニ付キマシテハ、既ニ大阪デハ市會ヲ開イテ、サウシテ其決議ヲシテ  
 居ルノデス、天王寺ノ附近ニ於テ必要ニ應ズルコト云フ、何程ノ坪數デモ天王  
 寺ノ附近ニ於テ東京府ヨリ廣イ地面ガアルノデアリマス、ソレデ他ノ事ハ議  
 論デアリマスカラ、御答ヲ致シマセヌ

(市島謙吉君演壇ニ登ル)

○市島謙吉君(百七十五番) 唯今第五回勸業博覽會ヲ大阪ニ開クベシト云フ  
 ノ建議案ヲ主張セラル、タメニ、京都選出ノ議員ガ此處ヘ出席セラレマシテ  
 ゴザイマス、京都選出ノ議員ガ大阪ノタメニ主張セラル、ト云フコトハ、  
 是ハ餘リ公平デナイト私ハ考ヘル(新網ノ人ガ東京ノ肩ヲ持ツハ不公平ダ)  
 ト呼フ者アリ)面シテ東京市ニ置クベシト云フ建議案ニ對シマシテ(此時發言  
 スル者多ク議場騷然)無聞ニ關係ノゴザイマセヌ新網選出ノ議員ガ是ヲ  
 主張致シマシテコト、初テ公平ヲ得テ居ル(東京ニ居ルカラダ君ハ)ソレナ  
 馬鹿ナ事ガアルモノカ「東京ニ居ル人ダモノ」ト呼フ者アリ)此問題ニ附キマ  
 シテハ、格別長タラシキ議論ヲスルヲ要セナイト思フ、詰リ内閣勸業博覽會  
 ノ目的ガ、何處ニアルカト云フコトヲ考ヘレバ足ラウト思ヒマス、勸業博覽  
 會ト云フモノハ中村君ノ御説ノ如キモノデアリナイト思フ、中村君ハ何カ博覽  
 會ヲ「パノラマ」カ勸工場ノ如ク解釋ニナツテ居リマス、ソレハ決シテ斯  
 様ナモノデアリナイ、内閣勸業博覽會ハ即チ勸業ヲ主トスルモノデアラナラバ、  
 出品者ノ望ム所ハ何デアリカト云フコト、成ルタケ大勢ニ見セタイト云フノガ、  
 即チ趣意デアリノデアリゴザイマスカラ、私ハ何處ノ土地デモ宜シ、則チ人間  
 ノ澤山集リマス處コト、即チ其土地デアリト思フノデアリゴザイマス、是ガ故ニ  
 若シ大阪ニシテ多クノ人ヲ集ムルコトガ出來ラバ、私ハ大阪ニ贊成スル  
 モノデアリカ、諸君、公平ニ考ヘテ御覽ナサイ、日本全國デ人ガ何處ヘ一番  
 多ク集マルカト云ヘバ、即チ東京ニ集マルコトハ極リ切ツテ居ル話デアリ、  
 東京ノ御承知ノ如ク、聖天子ノ御住ヒニナツテ居ル處デアリ、總テノ官衙ノ  
 集マツテ居ル處デアリ、全國デ一番大切ナル用ヲ執ルカト云ヘバ、  
 東京デアリト云フコト、不斷デモ東京ニ輻輳スルコト云フ場合デアリ  
 (公平ダ公平ダ)ト呼フ者アリ)況ヤ勸業博覽會ヲ開クト云フ場合  
 ニ至リマシテハ、全國ノ人ハ種々ナル用ヲ兼ネテ東京ヘコソ參レ、殊更ニ此  
 博覽會ノタメニ態々大阪マデ足ヲ勞スルト云フコトハ、極メテ不便ナ話デゴ  
 ザイマスルカラ、斯様ニ論斷シマスルト云フト、誰ガ考ヘテ見テモ(此時發



言スル者アリ、笑聲起ル。東京が大坂ヨリ宜イト云フコトハ明デア、況ヤ  
 (星君鳩山君田口君ノ演説ヲ聴クガ宜イ)ト呼フ者アリ。況ヤ(我田引水ヲ  
 ヤ)ト呼フ者アリ。第五回内國勸業博覽會ヲ開キマスル其時如何ナル時デア  
 カト申シマス。ト云フ。即チ外國人ニ内地雜居ヲ許シテ外人ノ眼前ニ初メテ  
 日本ノ産業日本ノ勸業ノ有様ヲ示ス。デゴザイマスルカラ、私ハ一體江戸  
 子ノ諸君ニ向ッテ、太腹デ以テ大阪ニ讓ッテ遣レト、不斷ノ時ナラバ言フデ  
 ス、併ナガ初テ外人ニ向ッテ日本ノ状態ヲ示スト云フ大切ナル其時ニ方リ  
 マシテハ、立派ナ博覽會ヲ今度日本ノ開カネバナラヌト思フ、是ガ故ニ多數  
 ノ人間ガ集ルニ足ルダケノ大キナ市街ニ是ヲ開カナカトナラバ、全國カラ  
 集ル所ノ人間ノ宿屋モナイト云フ。此大阪ニ之ヲ開クコトデゴザイマスレバ、  
 甚ダ事實ニ於テ差支ヘルト思フ、又斯ノ如ク吾々ガ望ムガ如キ立派ナル勸業  
 博覽會ヲ開クコト云フコトデアラナラバ、ドウシテモ是非共 聖天子ノ御臨幸  
 ヲ煩ハシタイト思ヒマス、然ルニ若シ大阪デアルト云フコトデゴザイマシタ  
 ナラバ、其邊ニ於テモ甚ダ不便ガアルコトデアラウト思ヒマス(ノウ)ト  
 ト呼フ者アリ。其他京都ニ於キマシテ先年既ニ博覽會ヲ開イタ、其經驗ニ照シ  
 テ見ルト云フト、例ヘバ審査會ヲ開クタメニ、役人ノ往復スルモノ、或ハツ  
 レニ關係シタル所ノ種々ナル役人ガ往復スル所ノ費用、其他ノ不便ト云フモ  
 ノハ、既ニ經驗ヲ經テ居ルコトデア、是ガ大阪ニアラズシテ、マダモウ少  
 シ京都ヨリ離隔シタル所ナラバ知ラザルコト、恰モ先年橫濱ニ開キタルモノ  
 ガ東京ニ開イタト同シク、此京都ニ開イタノハ、大阪ニ開イタト云ッテモ宜  
 イト云フ位ノ事實デア、更ニ七里カ八里カ十里位シカ隔タヌ所ニ開ク  
 ノハ、同シ所ニ二回開クト同シコトデゴザイマス、是ガ故ニ私ハ多辯ヲ要サ  
 ス、大勢ハ決シテ居ルモノト考ヘマスカラ、極テ公平ナル位置ヲ論斷シマス  
 レバ、大阪ニアラズシテ東京ニ開クト云フコトハ、免ニ角外人ノ眼前ニ初メ  
 テ開ク第五回内國勸業博覽會ニ對シテハ、私共ハ主張スルノガ、至當デア  
 ウト考ヘマス

(討論終結)ト呼フ者多シ  
 ○議長(片岡健吉君) 石田貫之助君  
 ○前川慎造君(百五十一番) 提出者ニ質問致シタウゴザイマス、市島君ハ東  
 京ノ何所ニ住ンデ居リマスカ、ソレヲ質問致シマス(笑聲起ル)

(石田貫之助君演壇ニ登ル)  
 ○石田貫之助君(六十五番) 諸君、最早討論終結ノ動議ガ出マシテゴザイマ  
 スルガデヤ、ソレニ向ッテ私ハ茲ニ聊カ昇見ヲ陳シタイト思ヒマス、唯五分  
 間バカリノコトデア、暫ク静聽アラシムコトヲ望ミマス、(誰ガ静聽スルモ  
 ノカ)ト呼フ者アリ。私ハ茲ニ此問題ハ誠ニ輕々タル問題デア、私ハ考ヘ  
 ル、然ルニ此議場ノ有様ヲ見マス。ナラバデヤ、實ニ本日ノ日程中ノ大問題  
 ノ如ク見エマス。又(同感々々)ト呼フ者アリ。餘程熱心ナ諸君モアルヤウニ  
 見エマス。併シ私カラ見マス。ト云フコトデヤ、誠ニ小問題デア、然レテ居  
 ゼナレバデヤ、即チ此勸業博覽會ト云フコトヲ起スカ、若クハ之ヲ廢スル  
 云フナレバデヤ、多少財政上ニ關係スル問題デア、然ルニ今ヤ顯ハレテ居  
 リマス。所ノ問題ハ、其土地ノ之ヲ東京ニ置クカ、將タ大阪ニ置クカト云フ  
 コトノ問題デア、是ハ國家ノ全體カラ見マシタナレバデヤ、實ニ私ハ小問  
 題ト云フノデゴザイマス(極テ同感)ト呼フ者アリ。此小問題ニ付イテ喋々之  
 ヲ論辯スルト云フノハ、又不當ノコトノヤウデゴザイマス。ルガデヤ、之ヲ知ッ

テ私ハ一言致シタイト思フノデアリマス、何ゼナレバ私ハデヤ、此苟モ帝國  
 議會ニ決議スルト云フコトガデヤ、又建議スルト云フコトモデヤ。最モ鄭  
 重ニ慎重ニ決議ヲ致シタイノデゴザイマス、若シ此院議ナルモノガデヤ、決  
 議ニモシロ、建議ニモシロ、院議ナルモノ、決シタルニ、當局者其モノガ之  
 ヲ冷笑ニ付シ、若クハ之ヲ不問ニ付スルト云フヤウナコトガデヤ。リマス。ナ  
 ラバ、是レ即チ輿論ヲ重シクシテ云フコトニナルデゴザイマセウ(知レタ  
 コト)ト呼フ者アリ。是ガ故ニ私ハ此院議ヲ重シクスルガ故ニ、此問題ニ反對  
 スルノデゴザイマス(ドチラニモ反對スルカ)ト呼フ者アリ。議場騒然タリ。御  
 聽キナサイ、靜ニ餘リ騒ガナイデ御聽キナサルガ宜イ、ソレデ(ド)チデモ  
 反對カ、君ハト呼フ者アリ。私ハ斯様ナ問題ハ、法律上ニ於テ議スベカラ  
 ズトハ言ハナイデゴザイマス、然レドモ性質上トシテ斯様ナ問題ヲ建議スル  
 ノハ宜シカラヌノシヤ、又語ヲ強メテ云フナレバ、建議スベキモノデナイ  
 ト云フモ餘リ不當ノ言デアハナイト思ウテ居ルノデゴザイマス、此位置ヲ定  
 メルト云フコトハ、言フヲ待タズ當局者其者ガ勿論是ハ權内ニ於テ定メルモ  
 ノデア、ソレデス。言ヒマスレバデヤ、反對諸君ハデヤ、サウスレバ建議  
 ハ出來ナイノデア、百駁ノ事建議ハ無用デヤナイカト云ハレルコトデゴ  
 ザイマセウ、私ハ左様ナ極端ナコトハ唱ヘナイノデゴザイマス、建議其者ハ  
 性質ニ依ッテハデヤ、既ニ議院法ニ於テ建議スルト云フ明條ガアル位デヤ、  
 隨分此建議ハ宜カラウ、實ニ丁重ニ致サンナラヌ、マルデ此問題ニ付イテ無  
 責任ニ責任ハ言ヒマセウケレドモ、或ル場合ハ即チ無責任ノ建議スルト  
 云フヤウナコトハゴザイマセウ、又贊成シマスニモ彌、是ハ政府ガ此決議ヲ行  
 アル以上ト云フモノハ是非共セヌナラヌ責任ガアル、又セシムル責任ガ  
 アル。云フ位ノモノデアリマス。贊成致サヌ趣意アル、況ヤ此現ニ地  
 位ヲ定ムル如キハ、行政官ノ定ムル所デア、然ルニ是ガ地方ノ請願若クハ  
 陳情モアレバ、此處ガ宜シト云フテ建議ニ同意贊成シ、且ツ決議スルト云  
 フコトハ、即チ實ニ喜バザル所デアリマス、故ニ私ハ全體ハ東京大阪即チ  
 本問題ニ現レテ居ル所ニ致シマシテハ、先決問題トモ言フベキモノニナリ  
 セウト思フ、是ハ建議其モノニ付イテ反對デア、大阪ニ反對東京ニ反對  
 ト云フデハナイ、建議其モノニ付イテ私ハ反對ト云フノデゴザイマス、(五分  
 間過ギタ)ト呼フ者アリ。唯是ダケノコトヲ私ハ辯シヤウト云フタメニ私ハ登  
 壇致シタノデアリマス

○西村淳藏君(六十二番) 六十二番——六十二番  
 ○星亨君(二百三十四番) 二百三十四番——議長  
 ○議長(片岡健吉君) 討論終結ノ動議ガゴザイマシタガ、先キニ此所ニ委員  
 付託ノ動議ガ來テ居リマス、是ハ先決問題ニナリマス。委員付託ノ採決  
 ヲ致シマス

○星亨君(二百三十四番) 委員付託ノコトニ附イテ、チヨット申シタイコト  
 ガアル、即チ此問題ハ二ツ出テ居ルノデゴザイマス。ノデア、且又其大阪ノ方  
 ニ開カントシタ人ハ、何カ政府ノ證文見タヤウナモノヲ振散ラカシテ居ル  
 デアル、其證文ガ果シテ眞デア、ルカ何デア、ルカト云フコトヲ調ベナケレバ  
 ラヌ、又其事ガ果シテ權限ヲ持ッテ居ルヤ否ヤ次官等ノヤッタコトガ、

衆議院議事速記第三十二號  
 明治三十二年二月二十日 第五回内國勸業博覽會ヲ東京ニ設置スルノ建議條  
 四六三

若シ權限ガナイト云フナラバ、即チ是ハ餘程政府ニ向ッテモ爲ナケレバナラヌコト、考ヘルノデアル、旁々以テ委員會ニ付託ヲ致シテ其上デ之ヲ決センコトヲ(此時議場騒然タリ)故ニ九名議長指名ト云フコトノ動議ヲ提出致シマス

○議長(片岡健吉君) 委員付託ハ先決問題デアリマスカラ、委員付託ノ採決ヲ致シマス、九名ノ特別委員ヲ議長ガ指名スルト云フ動議デアリマス、委員付託ノ説ニ同意ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス

○議長(片岡健吉君) 多數ト認メマス  
○議長(片岡健吉君) 委員ニ付託スルコトニナリマス  
○議長(片岡健吉君) 是ヨリ選舉法改正ノ委員會ヲ開キマスカラ……

○議長(片岡健吉君) 異議アリト呼フ者アリ  
○議長(片岡健吉君) 異議アリト呼フ者アリ  
○議長(片岡健吉君) 異議アリト呼フ者アリ

○議長(片岡健吉君) ナイト認メマス  
○議長(片岡健吉君) 又ハ「氏名點呼ヲナスベシ」又ハ「贊成」ト呼フ者アリ

○議長(片岡健吉君) 二十名ノ贊成者ガアリマセヌ  
○議長(片岡健吉君) 又ハ「贊成ガアリマス」又ハ「不公平ナ議長、ソノナ暴ナコトハナイ」ト呼フ者アリ

○議長(片岡健吉君) 今ノ採決ニ異議アル諸君ハ、起立ヲ請ヒマス——二十名以上ト認メマスカラ、是ヨリ氏名點呼ヲ致シマス  
○議長(片岡健吉君) 閉鎖——氏名點呼ヲ始メマス

○議長(片岡健吉君) 宣告致シマス、唯今ノ採決ハ委員付託ニ附イテ採決ヲシマシテ、多數ト認メマシタガ、之ニ異議ガアリマスカラ、委員付託ニ贊成カ反對カラ決シマス  
○議長(片岡健吉君) 閉鎖

○議長(片岡健吉君) 先程願フテ置キマシタ委員會ヲ開キタウゴザイマス  
○議長(片岡健吉君) 星亨君、委員會ヲ開クニ付イテ許可ヲ請ヒタイト云フ

○議長(片岡健吉君) 星亨君ハ委員會ヲ開キタイカラ、議場ノ許可ヲ得タイ

ト云フコトデアリマスガ、許可シテ宜シウゴザイマス  
○議長(片岡健吉君) 尙ホ豫算委員長カラモ是ヨリ委員會ヲ開キタイカラ、退席ノ許可ヲ得タイト言フコトデアリマス、異議ハアリマセヌカ

○議長(片岡健吉君) 恆松君ヨリ水産調査及漁業練習ニ要スル船舶新營並水産實習所ノ新設ニ關スル建議案ノ委員會ヲ開キタイト云フコトデアリマスガ、異議アリマセヌカ

○議長(片岡健吉君) 然ラバ許可スルコトニ致シマス——チヨト諸君ニ御諮リスルコトガゴザイマス、決算委員長ノ古谷新作君ハ病氣ニ付委員長ノ辭任ヲ申出ラレマシタガ、許可シテ宜シウゴザイマスカ

○議長(片岡健吉君) ツレデハ決算委員諸君ハ直チニ委員長ヲ互選セラレマシテ、議長ハ御報告アラシムコトヲ望ミマス——モウ一ツ御諮リスルコトガゴザイマス、今ノ決算委員長ノ古谷新作君ハ委員ヲモ辭任セラレマシタ、ニ就キマシテハ其部ニ於テ其後任者ヲ選舉セラレンコトヲ望ミマス、——唯今ノ氏名點呼ノ結果ヲ御報告致シマス

○議長(片岡健吉君) 委員ニ付託スルコトニナリマシタ、尙ホ報告ガアリマス  
○議長(片岡健吉君) 委員ニ付託スルコトニナリマシタ、尙ホ報告ガアリマス

監獄則改正法律案 提出者  
山内吉郎兵衛君  
中田彌平君  
赤土亮君  
堀家虎造君  
高橋九郎君

日本興業銀行法案 提出者  
松田正久君  
鳩山和夫君  
藤澤幾之輔君  
山田喜之助君  
重岡蕪五郎君  
栗原亮一君  
中村榮助君

早川龍介君  
田中喜太郎君  
林彦一君  
大瀧傳十郎君  
佐々木正房君  
佐々木正藏君  
大三輪長兵衛君  
加藤政之助君  
根本正君  
永江純一君

○議長(片岡健吉君) 明日ノ議事日程ハ、追テ書面ヲ以テ御通知致スコトニ致シマス、是ニテ散會致シマス  
午後四時九分散會